

# ブラジル日系社会談話資料

—— 福島県出身者たちの語り ——

上越教育大学大学院学校教育研究科

白岩 広行 編

## ブラジルでお世話になったみなさま

私が調査をしたときには、こころよくご協力くださり、ありがとうございました。日本から「コロニア語」の調査に参りました白岩広行です。調査で話していただいた内容を本にまとめました。

この本は、ブラジルの日系人の方たちの「ことば」の記録、生活の記録として役立てたいと思います。私は大学で授業をしていますが、こういう資料を見せて、1世の苦労話や2世・3世の活躍を話すと、学生の視野が広がります。ブラジルの日系社会は日本にとって大きな財産だと思いますが、その価値を日本の人たち、特に大学生などの若い人たちに伝える資料にしたいと思います。

この本は、非営利の「報告書」として、関係の研究者や大学、図書館などに寄贈し、いろいろな人にブラジルの話を知ってもらうための資料にします。また、私はこの資料をもとに日本語研究の論文を書きます。

ブラジルでみなさまと過ごした時間は、とても楽しく、私の「ものの考えかた」を変えるものでした。私の人生の中で、とても意味のある時間でした。ひとことではどうにも言い尽くせませんが、いろいろなことを話してくださり、まことにありがとうございました。

## この資料をご覧になる日本のみなさま

この資料は、ブラジル日系社会の方々の会話の様子を文字に起こしてまとめたものです。特に、東日本最大の移民県である福島県から移住した1世および、その2世の人たちの会話をおさめました。

この方々は、基本的に日本語で話していますが、そこにはブラジルの公用語であるポルトガル語が混ざっており、福島の方言や、西日本の方言も混ざっています。この特徴的な日本語は「コロニア語」と呼ばれるもので、ブラジル日系社会の文化を反映しており、日本語の研究上、たいへん面白い、貴重なことばです。

また、会話の内容は、ブラジル日系社会の生活の記録でもあります。遠く離れたブラジルの地で、日本にルーツを持つ人たちが、どのような生活を作りあげているか、そして、今の日本をどう見ているか、読んでいただきたいと思います。主な話題については「話題さくいん」をご覧ください。

ブラジルの日系社会は、日本にとって大きな財産です。その大いなる魅力を、この資料をつうじて多くの人に感じとっていただければ、幸いこれに過ぎることはありません。

ブラジル日系社会談話資料  
——福島県出身者たちの語り——



# 目次

はじめに .....	i
表記の規則 .....	v
談話・話者一覧 .....	vii
話題さくいん .....	viii

## 《サンパウロでの収録談話》

談話 1 : IA (1 世) - IB (1 世) - 白岩 (調査者) .....	1
談話 2 : IC (1 世) - ID (1 世) .....	22
談話 3 : NA (2 世) - NB (2 世) .....	48
談話 4 : NC (2 世) - ND (2 世) .....	67

## 《ピラール・ド・スールでの収録談話》

談話 5 : IE (1 世) - 白岩 (調査者) (-IF (1 世)) .....	91
談話 6 : SA (3 世) - 白岩 (調査者) (-NE (2 世)) .....	132

## 《アチバイアでの収録談話》

談話 7 : IG (1 世) - IH (1 世) .....	155
----------------------------------	-----

分析例 (論文) .....	177
----------------	-----

## 付録

話題表の例 .....	202
補足説明さくいん .....	204
地図 (福島県・ブラジル主要地名) .....	206



## はじめに

この報告書は、ブラジル日系社会における、主に福島県出身の 1 世、およびその子ども・孫にあたる 2 世・3 世の方々の談話を文字化したものである。この資料は、以下のふたつの目的をもって作成した。

(1) 言語面：ブラジル日系社会の日本語（コロニア語）の言語的特徴を知るという目的

(2) 文化面：ブラジルに生きる日系人の生活を知るという目的

以下、この 2 点について「なぜ福島県出身者に注目するのか」という点をふくめて簡単に説明する。

### (1) 言語面の資料として

ブラジルの日系社会では、日本語を基盤としながらポルトガル語の単語が混じる「コロニア語」が話されることが知られている。このコロニア語については、どのようなポルトガル語が混じるかという観点から研究が進められているが、「日本語」とされるもののなかにも、日本各地の方言が混じっている。特に、ブラジルの日系社会では西日本出身者が多数を占めており、もともとは西日本の方言だった表現が東日本出身者をふくめた日系社会全体で使用されている。しかし、そのような方言的要素に関する、実際の談話をもとにした分析は、まだ研究の蓄積が十分でない。

そのため、本報告書では、東日本最大の移民県である福島県の出身者を対象に、彼らの自然な談話を収録し、「ことばの資料」とした。資料を見ればわかるとおり、「東北」を「とうほぐ」、「蜂」を「はつ」、「悪い」を「わりい」と発音するなど、音声面では福島の訛りが残る一方で、「家にいる」を「家におる」、「知らない」を「知らん」などという西日本方言の特徴があちこちに混じっている。これは、彼らが、福島の訛りを保持しながら、日系社会の多数派である西日本出身者にあわせて、自分の「日本語」を変えていったことを示している。つまり、この談話は、日系社会において東日本方言と西日本方言がどのように混じりあってきたかを示すものであり、「ブラジル日系社会の日本語＝コロニア語」がどのようにして作られたのかを考える資料になる。また、最近盛んになっている「接触言語」の研究のための資料として、言語学分野に広く貢献しうるものとする。

### (2) 文化面の資料として

ブラジル日系社会の文化については、文化人類学や社会学など、さまざまな面から記録がなされている。しかし、日系の人たちの実際の語りをそのまま文字起こした資料は、さらに収集する価値があるように思われる。研究者の解



釈が加わらない「生の語り」は、日系社会の生活文化を知るうえで重要なもの  
と考えるからである。

そのため、この報告書では、語った内容をそのまま文字に起こすことで「こ  
とばの資料」とするほか、「文化の資料」としての意味も持たせたいと考える。  
この報告書では、1世の方の苦労話や2世の方のブラジルでの生い立ちなどが語  
られており、日系社会の人々がどのように生きてきたかを知ることができる。  
語り口をそのまま文字にしているのも、臨場感があり、読み物としても楽しめ  
るのではないかと考える。現在の日本人の多くは、日本が移民送出国だったこ  
とを知らずに育っており、日系人がブラジル社会で活躍していることを十分に  
知らない。この資料によって、日本にいる人たちにブラジル日系人の生活を知  
てもらおうというのが、もうひとつの目的である。

ところで、2011年の原発事故以降、福島県では県外への転居者が急激に増加  
した。人口の流出は現在の福島県にとって大きな問題であり、転居した人ひと  
りひとりにとっても苦労は大きいものと思われる。しかし、そもそも進学・就  
職などで移動する福島県出身者は原発事故以前から多いのであり、大勢の人が  
県外の各地で生活基盤を築き、それぞれにかけがえのない日常を送っている。  
そして、故郷を離れて活躍する福島県出身者はブラジルにも多数いる。次ペー  
ジの表1、2は、戦前移住者、戦後移住者のそれぞれの人数を出身県別にまとめ、  
移住者の多い順に上位20県を並べたものである。表では東日本の各県を  
で囲ったが、西日本各県の移住者が多いなかで、福島県は東日本では突出して  
移住者の多いことがわかる。同じく□で囲った北海道が全国各地から集ま  
った開拓者の再移住という性格を持つことを考えると、実質的には福島県が東  
日本最大の移民県ということになる（東京都も実際には東京出身者以外が相当  
数混じっていると考えられる）。

しかし、福島が日本有数の移民県であったことは、現在の福島県ではあまり  
知られていない。私自身、福島が移民県だったことは知らずに育ち、ブラジル  
に来て福島の人に会って「すごい人がいるもんだ」と驚いた。この「すごい人  
がいるもんだ」という思いを、この資料を通じて日本にいる多くの人たちと共  
有したいと考える。そう遠くない昔にブラジルに渡り、故郷を離れても豊かな  
生活を築き上げた人々がいるという事実は、我々の視野を広げ、現今の日本、  
現今の福島県を勇気づけるひとつの材料にもなるであろう。

この目的のために、本談話資料には「話題さくいん」をつけている。気にな  
る話題を好きなように読んでいただければ幸いである。例えば、「東日本大震災  
の話」の話題では、ブラジルにいる福島県人が、どのように震災や原発事故を  
とらえているかを知ることができる。福島の現況を心配したり、親戚をブラジ  
ルに呼び寄せようとした話者もいることがわかる。そのような人々が遠くブラ  
ジルの地にいることは、ぜひ知っていただきたい。

表 1 戦前（1940 年時点）の  
出身県別ブラジル  
在留者数上位 20 県

都道府県	移住者数
熊本	21,482
福岡	17,698
沖縄	16,287
広島	12,983
北海道	11,791
福島	10,738
鹿児島	6,112
岡山	5,777
山口	5,709
高知	4,527
長野	4,353
和歌山	4,080
愛媛	3,756
佐賀	3,730
山形	3,636
宮城	3,631
静岡	3,554
愛知	3,529
大阪	3,232
東京	3,149
その他各県	43,402
総計	193,156

表 2 戦後移住者（1952～19  
93 年）の旅券発給県別  
移住者数上位 20 県

都道府県	移住者数
沖縄	6,178
熊本	3,771
東京	3,590
福岡	3,550
北海道	3,228
長崎	2,898
福島	2,341
山口	1,934
鹿児島	1,616
和歌山	1,615
宮崎	1,464
神奈川	1,444
高知	1,353
広島	1,342
愛媛	1,260
群馬	1,110
佐賀	1,000
大阪	927
兵庫	880
岡山	828
その他各県	11,328
総計	53,657

石川友紀（1989）「ブラジルにおける日本移民の地域的分布と職業構成の変遷 —— 第二次世界大戦前を中心に ——」『琉球大学法文学部紀要 史学・地理学編』32 号、p.15  
の表をもとに作成

国際協力事業団（1994）『海外移住統計』、  
p.28-29 の表をもとに作成

\*表 1、表 2 ともに、方言的特徴（183 ページ参照）をもとに新潟県・長野県・静岡県以东を東日本、富山県、岐阜県、愛知県以西を西日本とし、東日本の各県は□で県名をかこっている。また、表 1 の「その他各県」には樺太の 62 名、出身不詳の 694 名をふくむ。

以上、この報告書を作成した目的を、ふたつの面から説明した。このような言語資料は、発音に忠実なよう、カタカナやアルファベットの音素表記で文字化されることが多いが、この報告書は日本語の書き方として一般的な「漢字ひらがな混じり」で文字化している。これは、(2) で挙げたような、生活文化を知る資料としての価値を持たせるためであり、言語研究者以外の日本語母語話者にも読みやすいよう配慮したためである。代わりに、特別な発音については、ふりがなをふることで対応している。表記の規則については次のページを参照されたい。

そのほか、談話内容の理解がしやすいよう、補足説明や写真を適宜加えている。写真はすべて白岩の撮影したものであり、補足説明も白岩の筆によるものである。印刷の都合上、写真は白黒だが、白岩の個人サイト「web 白岩」

(<http://shiraiwa.sakura.ne.jp/>) の「論文 > 日系人日本語」のページに設けた本報告書の紹介項目にカラー写真を掲載する予定である。

なお、談話の音声は、不特定多数の人に公開するのを避け、特定の個人あてにのみお送りする。もし音声データが必要な場合には奥付に記載した連絡先までご一報いただきたい。

また、調査の際には、福島県出身以外の方もふくめ、多くの方のご協力をいただいた。今回、この報告書におさめきれなかった談話も数多くあるが、ご容赦いただきたい。おさめきれなかった談話も整備を進めているところであり、機会を作って、あらためて続刊としてまとめたいと考えている。

末筆になるが、調査にあたってご協力いただいたブラジル福島県人会、アチバイア福島県人会のみなさま、ピラール・ド・スールの町のみなさまにあつく御礼申し上げたい。また、調査・文字化にあたっては、日系・非日系をとわず、ブラジル人の多くの友人・知人の協力を得た。お名前を挙げることは差し控えるが、あわせてあつく御礼申し上げたい。ひとことではとうてい言い尽くせるものではありませんが、本当にありがとうございました。

## 表記の規則

1. 原則として、日本語による発話は「漢字かな交じり」で表記し、ポルトガル語による発話はアルファベット表記とする。漢字・かな・記号は「全角」、英数字は「半角」とする。
2. かなづかいは、原則として、日本語の標準的な表記にしたがうが、例えば「見たか」を「ミダガ」のようにいう福島方言独特の発音（有声化した k 音、t 音）などは「見だが」と発音どおりに表記する。ただし、発音の聴き取りは編者の聴覚的印象によるものであり、必ずしも正確なものではない。
3. 漢字等に読みが 2 とおりある場合、読みが福島方言に特徴的な発音の場合などは、「その<sup>あと</sup>後／その<sup>ご</sup>後」「<sup>なな</sup>7／<sup>しち</sup>7」「<sup>わが</sup>若い」のように、実際の発音どおりにふりがなをふる。ただし、「日本」という語は「につぼん」という発音のときのみにふりがなをふり、「にほん」という読みときには特にふりがなをふらない。また、発音の聴き取りは編者の聴覚的印象によるものであり、必ずしも正確なものではない。
4. 会話参加者はアルファベットの話者記号で示す。各話者の記号は別表（vii ページ）のとおり。
5. 話し相手のあいづちはカッコ内に入れ、相手の発話に埋め込む。ただし、「独立した発話」か「あいづち」かの判断に厳密な基準は設けていない。また、発話が重なった場合も、適宜、発話を別々に分けて文字化している。
6. 補足のための記号はすべて「全角」とし、以下のように用いる。
  - ☐ 発話文末には「。」をつける。ただし、文末と判断するための厳密な基準は設けていない。
  - ☐、 読みやすさを考慮して適宜「、」をつける。
  - ☐? 疑問文の文末には「？」をつける。疑問の終助詞がない場合や上昇イントネーションをともしない発話でも、文脈に応じて適宜つける。
  - ☐… 語尾が言いよどんでいる場合や、言いよどみから発話を始める場合には「…」をつける。
  - ☐\* 音声聞き取り不能であった部分や意味が不明な部分は「\*」で示す。

- 〔 〕 あいづちは、発話者の発話中に（ ）でくくって入れる。上記 5 の項目参照。
- 《 》 ポルトガル語、福島方言に対応する標準日本語訳は《 》に入れて示す。
- 「 」 ほかの人の発話の引用、本や映画の題名等、視覚上、区別したほうがわかりやすいと思われるものは「 」でくくって示す。
- 【 】 文脈を理解するうえで必要な情報がある場合には【 】でくくって示す。
- { } 笑いや咳など、非言語音は { } でくくり、{笑い} {咳} のように示す。

7. 人名や細かな地名、勤め先など、個人が特定される固有名詞については「○」のように伏せ字にする。また、音声データでは、その箇所を無音にしたり（談話 1～4）、ピー音を入れたり（談話 5～7）する。

8. 編者の判断で談話を話題ごとに区切り、「話題さくいん」(viii ページ) に示した各話題の冒頭を下の例のように示す。(27:45～) のように示した数字は、音声データの中でその話題が始まるおおよその時間を表す。話題が複数のことがらにまたがる場合は／で区切って、複数の話題を併記した。

例) ■ 東日本大震災の話 (27:45～)

なお、項目 6 に示した各記号の使用については、工藤真由美ほか (2009) 『ブラジル日系・沖縄系移民社会における言語接触』(ひつじ書房) における文字化の方針を参考に行っている。

## 談話・話者一覧

談話 番号	話者	世代	生年	性 別	出身地 (2世は両親の出身)	渡航 年	主な 職業
	IA	1世	1933	男	福島県郡山市	1957	農業
【01】	IB	1世	1932	男	山形県長井市・ 山形市	1950*	商工業
	白岩		1982	男	福島県伊達市		(調査者)
【02】	IC	1世	1935	男	福島県白河市	1959	農業
	ID	1世	1945	男	福島県大玉村	1972	技師
【03】	NA	2世	1934	男	父：福島県会津美里町 母：石川県		会社員
	NB	2世	1956	男	父：福島県南相馬市 母：東京都		会社 経営
【04】	NC	2世	1944	男	父母：福島県いわき市		会社員
	ND	2世	1945	男	父母：福島県いわき市		会社員
【05】	IE	1世	1933	男	福島県伊達市	1955	農業
	IF	1世	1936	女	福島県伊達市	1958	農業
	白岩		1982	男	福島県伊達市		(調査者)
【06】	SA	3世**	1967	男	父：福島県 母：ブラジル 母方祖父母：福島県		農業
	NE	2世	1967	女	父母：福島県伊達市		公務員
	白岩		1982	男	福島県伊達市		(調査者)
【07】	IG	1世	1932	男	福島県大玉村	1935	農業
	IH	1世	1943	男	福島県伊達市	1958	商業

\* この渡航年は本人への聞き取りによるが、1950年は日本からの移住が制限された中断期にあたるので、実際には1953年の移住再開後の可能性もある（いずれにしても戦後移民であることは間違いない）。

\*\* 父は1世、母は2世なので、いわば「2世半」にあたるが、他の2世と区別して3世と呼ぶことにする。また、父・母方祖父母が福島県内のどこ出身かはSA本人も知らない。

## 話題さくいん

### 【1世：渡航前の日本での生活】

地元 にいたときの話	3、6、22、92、155
地元 を出たあとの話	4、25

### 【1世：渡航時のこと】

いつ 渡航 したか	24、30、156
移住 を決めてから船 に乗るまで	9、11、27、36、96、158
渡航 した船 の話	1、31、107、114

### 【1世：渡航後のこと】

最初 の移住 地について	14、18、30、105、109、114、156、160
最初 の移住 地から移動 した話	15、18、19、113
ブラジル 各地を転々 とした話	32、39
日系 人の知人 にだま された話	37
移住 地の発展 について	103

### 【2世：ブラジルでの生い立ち（小さいときに渡航した1世をふくむ）】

ブラジル での生い 立ち	48、49、51、54、67、70、72、75、76 139、140、141、160、162
--------------	---

### 【これまでの半生や現在の生活】

結婚 の話	11、113、132
家族 の話	44、98、125、133、141
友人 の話	45、165
仕事 の話	4、9、25、32、37、39、53、56、69、70、73、75、88、91 109、119、133、167、171
第二次 大戦 前後 の話	49、105

今日の話 .....	172
今後の生活について .....	88

### 【ことば関連の話】

どんなことばを使うか .....	49、53、58、70、73、75
	125、143、165、167、170
コロニア語の特徴について .....	147
ポルトガル語で苦勞した話（1世） .....	18、19、41
ポルトガル語学習の話（主に1世） .....	76、107、162、170
日本語学習の話（主に2世） .....	51、54、72、76
	140、143、160、162、170

### 【ブラジルのこと】

ブラジル社会のよいところ・悪いところ .....	42、58、81
ブラジルの食文化 .....	6
日系団体の話 .....	51、54、57、126、163、172
今の若い日系人について .....	58

### 【日本のこと】

今の日本社会の悪いところ .....	42、59、78
日本のテレビや本の話 .....	43、63、72、126
日本に行ったときの話 .....	4、98
日本にいる親戚の話 .....	3、64、84、169
東日本大震災の話 .....	44、63、64、84、126、173

### 【この調査について】

会話を開始する .....	132、155
会話を終了する .....	46、130、176





【談話 1】IA（1 世）－IB（1 世）－白岩（調査者） 26 分 16 秒

収録地点：ブラジル福島県人会会館

収録日：2012 年 3 月 5 日

話者の関係：IA と IB は県人会での知人どうし。調査者の白岩が県人会を訪問し、IA・IB と初対面したときの収録。IB の発話量は少なく、IA と白岩の会話が主である。

# ■ 渡航した船の話（0:00～）

白：【録音機を置いて】ちょっとじゃあ、\*\*、置がせてもらいます。せっかくだから。いや、こうやって僕としゃべってるところも、やっぱり、あの…

IA：あ、そう。

白：そうそうそう。

IA：なにしろ、その僕らは、55 年になるんかない《ね》。

白：55 年。

IA：【笑】<sup>けっきょく</sup>結局は 55 年前の、（白：あー）その、田村町のことばで、ねー。

（白：【笑】）家内は二本松なんですよ。

白：あ、奥さん<sup>にほんます</sup>二本松ですか。あー。

IA：ああ。んだけど、おんなじだもんね。郡山も二本松も。

IB：二本松？

白：おんなし《同じ》ようなもんですね。

IA：同じもんだ。

白：うん。え、じゃあ、55 年前っていうと、渡ってきたのは何年ですか？ 55 年前だから…

IA：せん、<sup>せんきゅうひゃくごじゅうしち</sup>1 9 5 7 年の 12 月に着いたの。

白：あー、…に、Santos《地名（港）：サントス》に着いた。

IA：そう。（白：あー）11 月<sup>みづか</sup>3 日、<sup>てんちようせす</sup>あれ、天 長 節 ですか、昔の。



【補足説明：移住者上陸の地サントス】

日本からの移住者が最初にブラジルに上陸したのは、サンパウロの南東約 50km にある港町サントスであった。写真はサントスに立つ日系移住者の記念碑

談話 1

白：あーあー、<sup>てんちようせず</sup>天 長 節 \* \*

IA：…に、出て。

白：じゃ、けっこうかかったわけですね、やっぱし。な…

IA：46 日かな。

白：46 日間。

IB：あ、日本船？ に、日本船？

IA：日本船。アメリカ丸。

IB：アメリカ丸。

白：アメリカ丸。

IA：アメリカ丸。

IB：<sup>ほぐ</sup>僕は 58 日かかるとる。

IA：だいたいあの、アメリカ丸…、フランス丸か？（白：あー）

IB：ブラジル丸と…

IA：ブラジル丸は新しいんだけど…

白：そのアメリカ丸には横浜から乗った？

IA：<sup>よごはま</sup>横 浜 から。

白：ですね。うーん。

IB：横浜から出た？

IA：横浜 \* \*

IB：神戸じゃなかった？

IA：não、não 《いやいや》。下のほうの人、神戸が近い人<sup>しと</sup>は神戸から乗ったね。

白：あーあーあーあー。

IA：横浜の、あの、関東から…

白：関東から、<sup>とうほく</sup>東 北 のほうから、うん。

IA：そうそう、北海道までは（白：あー）横浜からになる…

白：〇〇【IB の名前】さんも横浜？ え、神戸？

IB：うん。僕はあの、よ、あの一、なんつーの？ あの一、オランダ船で来た。

白：オランダ船で。え？

IB：アフリカ回り。

白：アフリカ回り？

IB：2 ヶ月。

白：あー。

【携帯電話の鳴る音】

IA：あのころ、僕ら来るころは、

（白：ええ、ええ）日本船と

（白：ええ）オランダ船と、

両方あったんだよね。

白：ふーん。オランダ船はオランダの、あの、ヨーロッパのほう。

IA：はい、はいはい。nāo 《いや》、日本船も（IB：あの一、あの一）あの一、アフリカ回りあったよね。

IB：いやいや、アメリカ回り。

【携帯電話の鳴る音。この後、バックで IB が電話でしゃべるが、IA と白の会話のみを文字化する。また、音声ファイルではこの箇所（2:15-4:25）の音声を消去する。】

IA：nāo 《いや》、全部、にほ、アメリカ回りだったんかな、日本船は。

白：あーあー。アメリカって、あのロサンゼルスとかあっちのほうの…

IA：そうそうそう。あー、sim、sim 《そうそう》。（白：あー）ハワイ、いちば  
さん先<sup>さき</sup>ハワイ寄って。

白：ハワイ行って。

IA：そのつぎロサンゼルス。

白：ロサンゼルス。あー。

IA：して《そして》、パナマ運河通って…

## ■ 地元 にいたときの話／日本にいる親戚の話（2:25～）

白：で、こう…【少し間】お生まれは、じゃあ、何年ですか？

IA：はい？

白：おう、生まれたのは何年ですか？

IA：せん、あの一、<sup>せんきゅうひゃくさんじゅうさん</sup>1 9 3 3 年。

白：33 年。

IA：ん、5 月<sup>ようか</sup>の 8 日で。{笑}

白：5 月。{笑} で、郡山の田村町。

IA：はい、田村町。

### 【補足説明：ブラジルへの航路】

この当時、ブラジルへの渡航経路には

① 日本→太平洋→米国→ブラジル

② 日本→インド洋→アフリカ→ブラジル

の 2 パターンが存在した。

## 談話 1

白：あのー…

IA：生まれで、今、今でも、あの、親元、親元っちゅうの、兄貴が亡くなって、甥っ子が、今でもあと継いでますよ。

白：あ、そうですか。

IA：はい。

### ■ 日本に行ったときの話（2:50～）

白：たまに、じゃあ、郡山のほうに行ったりはするんですか？ 遊びに。

IA：não、não 《いやいや》、日本行ったときは必ずそごを本拠に…

白：そこを本拠に。

IA：はい。

白：あー。

IA：<sup>しち</sup>7 回ぐらい行ったかな、日本。

白：あー、じゃあ、だいぶ行ってますね、あー。

IA：はいはい。

### ■ 地元を出たあとの話／仕事の話（3:05～）

白：じゃあ、あの、生まれてからずっとその、田村町にいて、そっからもう、ちょー…

IA：não、não 《いやいや》。

白：違う。

IA：生まれて一、こ、中学終わるまでおって、（白：あーあー）東京で高校やって。

白：あ、高校は東京ですか。

IA：はい。

白：あー。

IA：夜学をやってね。

白：あ、夜学。

IA：はい。

白：あー。じゃあ、あの、15 歳で東京に出だわけ…

IA：はいはい。

白：あー。

IA：おじさんがおったんで、（白：あー）おじさんが「面倒見てやるぞ」って来るのよ。「それは、来ないことない」つって、{笑}（白：{笑}）は一、みんなに反対されながら、（白：\* \* …）おじ、おじさんの、\* \* \*

白：あー、<sup>とうぎょう</sup>東京のどのへんさ《どのへんに》いたわけですか？

IA：はい？

白：東京のどのへんさ《どのへんに》いたわけですか？

IA：あの一、おじさんっていうのは飯田橋におって、がっこ、

白：飯田橋。

IA：はい。学校は、あの一、新小岩。

白：あー、新小岩まで。

IA：ええ。あそごに、〇〇【学校名】高等学校ってあったんだよね。（白：あー）そごの電気科をやったんだけど、（白：あ）電気\* \* なんか、なんにも覚えてないよ。{笑}

白：{笑} あ一、高校を出てから…

IA：出て、体の調子悪くて、（白：あ一）田舎へ帰って、3年ぐらいおったかな。2年ぐらいおったんかな。（白：あ一）そのうちに、あの、村の人に農協や、その、「何日でもいいがら、都合のいい日にち<sup>ひにじ</sup>だけでいいがら、ajuda《手伝い》してくれ」って言われて、農協へ、（白：農協に）2、2年ぐらい、働いたかな。

【IB の電話が終わる】

白：で、その2、3年、その、農協で働いて、

IA：働いて、うん。ん一、その前に\*、北海道行ったんだよ。{笑}

白：ほっか…あちこち行ってますね。{笑}

IA：友達と一緒に。

白：あー。

IB：日本で？

IA：日本で。

白：え、なに、いったん、じゃあ、こ、郡山に戻ってから北海道行って…

IA：nāo 《いや》。

白：nāo 《いや》？

## 談話 1

IA：北海道へ先行った。

白：北海道、先行って。

IA：親父に黙って北海道行って、北海道【笑】連絡<sup>れんらく</sup>して怒られて。

白：北海道には、え、じゃ、そんなに長くはいながったんですか？

IA：não、 não 《いやいや》、2 年かな。

白：あ、北海道 2 年。2 年。あー、北海道のどのへんですか？

IA：あー、あれは、空知郡っていうのかな。砂川町っていうところ。

白：あー、砂川。あの、真ん<sup>なが</sup>中のほうですね。

IA：はい。

白：あー。

IA：留萌市に、…の友達がおって、その友達とふたりで【笑】

白：【笑】じゃ、その友達のついで、北海道に行ったわけ…

IA：そうそう、そうそう。

### ■ 地元 にいたときの話 (5:40～)

白：あー。で、にせ、2 年ぐらいいてから、また郡山戻って。

IA：\* \*、戻って。

白：で、こおりや…

IA：その、今、\*、しばらく\* \*、心臓弁膜症だなんて言われちゃって。

白：あ、心臓<sup>わ</sup>が悪<sup>わり</sup>がったんですか。

IA：悪いほどじゃながったんだけど、「休まないかんよ」って言われて。(白：あー) うちへ来たら…

### ■ ブラジルの食文化 (6:00～)

【白岩が IA へのお土産で持ってきた福島産のイナゴの佃煮を見て、IB がイナゴの脚がのどに引っかかるという話題をはじめる】

IB：これよ、脚がここへ引っかかってね【笑】

白：【笑】脚が…

IA：【笑】まだ、まだある、あるんじゃないの\*。

IB：ん？ \* \* \* \* \*

IA：まだあるんじゃないのかい？【笑】

白：それ、脚をとったほうがうまいんですね。

IB：ん？

白：ん、脚をとったほうが、(IA：{笑}) 上等だって。

IB：あのね、た、たまにテレビでね、それ、【イナゴの映像が】出てきたら、子どもに言う、「あれを僕ら食べとんや」って、(白：ええ) \* \* \* って…

IA：nāo 《いや》、の子どもも2世はみんなそうだよ。

白：{笑} あー、そうですか。もう…

IA：そして、また1世の人は、今よ、テレビで出たらね「ほい、来とる来とる」  
{笑} (白：{笑}) 「見ろ、見ろ」ってやんだよ。{笑}

IB：要するに、バッタ、バッタ、\* \*

白：そうそう。もうちょっとあっから、あの、〇〇【IB の名前】さんにも持てきますから。

IA：うち、うちのあの、子ども、食べますよ、少しは。

白：食べますか。

IA：それ、何回も見せられて、何回かもらったの。日本から来る<sup>しと</sup>人。

白：あ、もらったんですか、日本から。あー、Mogi 《地名：モジ・ダス・クルーゼス（以下「モジ」）》【IA の現居住地】ではとれないですね。

IA：へー、もちろん。{笑}

白：絶対とれない\* \*

IB：いや、とれても食わないす【です】よ。

白：食わない。

IB：ねー。

IA：あ、食わない。

白：あー。

IB：ほんと、これ珍しい、ほんとね。

IA：その代わり、あの一、ここではね、あの、カツギアリ【蟻の一種か】の\*  
\* っちゅうか、あれ、あれの、あの、産卵期に飛び出す(白：はい) mel 《蜜》、  
あれをつかんで、尻とってさ、その尻を煎って食べるもんな、あれ。

IB：尻をこう、しゃぶる。すっぱい。ありのし、けつ。ね。

IA：うんと、あれ、あれを、あの…

白：あ？ あ、あ、あ、あ、あり？



談話 1

IB：うん、あり。

IA：あれ＊、よ、煎って食べるんだよ。

IB：うん。（白：あー）ありね、特別なあり。

IA：あれよ、あの、ん、カツギアリつつて、あの、葉っぱを切って、（白：ええ、ええ）持って、かえ、持って、巣に持ってぐやつおるでしょ。

白：はいはいはいはい、うんうん。

IA：列<sup>れず</sup>んなって。

白：ええ、列<sup>れず</sup>んなって。

IA：あれ、ものすごい、＊、下に穴の中に巣があるわけだ。（白：はー）あれの産卵期には＊＊つつて、（IB：＊＊）mel《蜜》だけが、特<sup>とぐべず</sup>別けつの大きいやつが卵をかかえて、（白：へー）出るわけですよ。

IB：それをなんかこう、こう、（IA：うー）{吸うときの音の真似}（白：はー）（IA：それがあの一）…という話なんだ。{笑}

白：{笑}

IA：それが羽あって、（白：うん）羽で飛んでって、その、自分の、このへんいいんじゃないかというところ落ちて、羽を落として、（白：ええ）そして、穴掘って、もぐるわけだ。（白：あー）それから卵生んで、巣を、（白：うんうん）増やしていぐわけだ、こう。（白：はー）その、あの、飛んでったやつはもう、ぽつんぽつんだがら拾えないけど、（白：ええ）まあ、飛び出す、その、巣の、近くったらもう、真っ黒に、む、出てきて、わさわさわささ《そろそろそろそろ》おるわけですよ。（白：ええ、ええ、うん）と、飛び出す前に。それを、取ってきて、尻とって、煎って食うんだよ。

白：どんな味がするんですか？

IB：す、甘酸っぱいって＊＊

白：あ、あまず…

IA：ん、んー、あの一、蜂の子っていうの、す、食べたごどない？

白：食べたごとは、あります。

IA：日本で俺、食べたことある。子どもころ。

白：あ、そうですか。え、ふくし…

IA：子どもでも食べるんだよ。（白：あー）＊＊、おんなじようなもんだよ。あれのほう<sup>はつ</sup>がおいしいね。（白：{笑} それ…）なんか、蜂のあれは、あまり

感心しないな、俺らは。(白：あー) 1 回、2 回、experimenta 《試験》、もう、試験受けてな、その、誰かが作ったどぎに、(白：ええ) 食べる…、見ても、これ、おいしいなんて思わん。(白：んー) もう、こごのものはもう、ものすごい好きで、また、あれ、は、あつ、はれが、あつ、あー、あれが大きいからね、つかんでも、こう、食いつかれるんだよ。(白：あー、あー、あー、痛い) おー、手いっぱい、傷、傷だらけになって (白：傷。{笑}) とっては袋に入れて持ってくんだよ。

白：は一、そんなにまで、食べるわけですか。

IA：うん、うん。おいしいんだ、やつらには。

### ■ 移住を決めてから船に乗るまで／仕事の話 (9:25～)

白：うまいんだ。は一。{息を吸う} じゃあ、あの、こっち、ブラジル来て、初めて、そのやった仕事は、農業から始めた…

IA：あ、もちろん、そうですよ。(白：うん) 僕らの来るときゃ【ときは】ね、(白：うん) えー、この一、いや、もう、だいが遊んだし、あっち歩きこっち歩き、今言ったように、えー、今度あの、学校終わって、仕事の、ちょ、ちゃんと入ってないから、(白：うん) あっちこちやったりね、(白：ええ、ええ) 体の調子悪くなったりして、休んで半年ぐらい、ぶらんぶらんしとったんかな、うちで。したら《そしたら》、\*、【郡山の】農協に「是非」組合長からつかまれて、「3<sup>みっか</sup>日でもいい」っていうんだよ。して《そして》、親父「そういうの、お前、3<sup>みっか</sup>日でも行って\*て、できなかったら腰かけとるだけでいい」つつーんだよ。(白：{笑}) {笑}「とりあえず俺、引き受けてきたんだ」と。(白：あー)「俺が見つけてくる」と言<sup>ゆ</sup>って、販売係にね。\*、\*、「3<sup>みっか</sup>日でもいいがら頼む」つつゅう、\*、\*、いうわけで、行ったわけだよ。(白：あー) そういう状態だから、もう、その、なんちゅうかな、そごやって、それから、黙って手続きして、その、(白：ええ)「農業移民」と。

白：農業移民\*、ええ。

【外の道路でバスが止まるブレーキの音がある】

IA：したら《そしたら》、そ、あの、若いものは「Cotia 《コチア》移民」ってあったんですよ。

白：なに…

IA: Cotia《コチア》移民って（白：Cotia《コチア》移民）ブラジルの Cotia《コチア》、あー、産業組合、（白：はい）…が引き受けて、世話して引き受けて、Cotia《コチア》産業組合の組合員のうちに配耕【耕地の配分】したわけだ。（白：あー）「あそごへ3人、あの<sup>しと</sup>人<sup>と</sup>とごふたり」とが、っていうことは、あの、Cotia《コチア》産業組合の一つのは、あの、batata《じゃがいも》、ね、じゃがいも。

白：Batata《じゃがいも》、あー、あー、じゃが…

IA: じゃがいも<sup>つく</sup>作りから、あれ、じゃがいもと tomate《トマト》がら、組合ができて、あれ、すごかったんだよね、batata《じゃがいも》。そして、じゃあ、そごへ、「よし」と、「3ヶ月待て」というわけで、その3ヶ月は、（白：ええ）あの、白河の、この一、ん、せ、青年のね、講習所があったんですよ。そこへ入って、

白：まず、しら、白河に入って…

IA: え、ん、それは県庁から、まん、あ、言われたわけだ。

白：県庁から言われて。

IA: いわ、行くやつは、（白：いったんそこで、あー）そこ行って、青年の訓練<sup>し</sup>せないかん。いや、毎日その、し、山の仕事に引っ張って<sup>し</sup>い<sup>し</sup>がれる、その、「体、調子悪い」なんつって、やってもい<sup>し</sup>な<sup>し</sup>かったのに、もう、嘘<sup>ゆ</sup>を言<sup>ゆ</sup>っちゃさぼ<sup>ゆ</sup>とったわけだ。（白：[笑]）[笑]して《そして》、夜ん<sup>し</sup>なるとみんな帰<sup>し</sup>ってきてさ、[舌打ち] そこの補導員は、「今、ブラジルの São Paulo《サンパウロ》の、São Paulo《サンパウロ》の誰さんのうちに行っておる誰と誰が…」、去年行<sup>し</sup>ったやつ、今年行<sup>し</sup>ったやつがね、手紙よごす。（白：あーあー）みんなそご、何<sup>なん</sup>ヶ<sup>か</sup>月<sup>げ</sup>が講習受<sup>し</sup>けて出<sup>で</sup>た奴<sup>やつ</sup>だから。（白：出<sup>で</sup>た、あー）そしたら、いいやつだけ読んで聞<sup>き</sup>かすわけだよ【ブラジルから来た

【補足説明：コチア移民】

日本からの移住者はブラジルで農業に従事したが、その定着率を高めるため、移住は原則として家族単位でおこなわれた。

その一方、日系の農業団体である「コチア産業組合」が身元を引き受ける形で、独身男性の移住も集団的におこなわれた。これを「コチア移民」といい、彼ら独身での移住者を「コチア青年」という。コチア青年たちは、大量の農作物を運ぶなど、重労働に従事した。コチア青年の重労働の様子は、談話5でIEが語っている（109ページからの部分）。

いい内容の手紙を読んで聞かせて講習生にブラジルでの生活に希望を持たせる】。して《そして》、留守番しとったら、たまたま読んで聞かせねえやつあるんだよ。それは、いや、ブラジルへ来て、その、今<sup>ゆ</sup>言った、僕ら仮にあの一、Cotia 《コチア》 移民で来て、あの一、じゃがいも作るとこへ配耕されたら、あれ1俵60キロ、かつがないかんわけだ【実際にはブラジルでの仕事は重労働だった】。

白：60 キロ。

IA：Camião 《トラック》、camião 《トラック》に。

白：は一。

IA：トラックに積むにね《積むのにね》。

白：ええ、ええ。

IA：それ、かつがないかんのに、あんなもの、かつげやせんわけだよ。いや、俺は、「これやめた」と。{笑}（白：{笑}）そういうやつは、その補導員が、先見て、\* \* \* \* \* ねえんだよ。（白：あーあー）俺はそれ見ちゃった。もう明日、さっそく補導員によ、「急用ができたから、うちへ行がしてくれ」つつて、（白：あーあー）うちへ行かずに、\*、県庁行って。{笑}

白：県庁行って。{笑}

#### ■ 移住を決めてから船に乗るまで／結婚の話（12:55～）

IA：で、ま、親から「行くな」、兄弟から「行くな、行くな」\*やつ、やっと、<sup>なっとぐ</sup>ん一、納<sup>ゆ</sup>得してもらってブラジル行くように決まって、今さら、そのCotia 《コチア》 移民の、ね、（白：ええ、ええ）えー、じゃがいも担<sup>か</sup>ぎでぎねえがらって、そのやめるわけいかんし、「どうするか」と考えて、一<sup>しとばん</sup>晩。（白：あー）いや「家族移民で行こう」と。

白：家族移民。

IA：家族移民つったら、あの、colono 《入植者》として、（白：Colono 《入植者》として、ええ）cafezal 《コーヒー園》（白：ええ、ええ、ええ、ええ）コーヒーに入ったり、<sup>ざっさぐ</sup>雑作地帯の（白：うん）ん、これも、その、同じ、ね、（白：ええ、ええ）農場の労働者なんだけども、あの、まず、その「ジャガイモ担ぎはねえだろ」と、いうごどで【独身のCotia 移民よりは楽だろうということで】、（白：ん一）その、「家族移民に切り替えてくれ」っち

ゆったら、<sup>とうず</sup>当時〇〇【人名 A】さんつって、その、移民課のおっちゃんがおったん\* \*。(白：ええ)口の悪いおっちゃんです、(白：{笑})みんなの、おるわけだ。「おい、お前なにごとを言うか」と、みんなに聞こえるわけだよ。(白：{笑})「<sup>かぞぐ</sup>家族移民っていうのは、かか《嫁》がおらないかんだ」って {笑} (白：{笑} そら\* \*)「ひとりで家族移民っちゅうごどあるか」つったけど。(白：うん)だ、おれも、あ、あやまちちゃってさ、<sup>ゆ</sup>こんど言<sup>ゆ</sup>ってやったよ「冗談じゃない」って、「かか《嫁》は、あんた、金払わんだってもらえるんだ」って、ただで、\* \*、ね、(白：ええ)なんとかなるんだ。おー、何日、あー、な一、「一ヶ月ぐらいの間にちゃんと名前持ってくるから。写真と名前持ってくるがら…」

白：え？ え？ 「名前持ってくるがら」って？ かか《嫁》の名前を？

IA：そ、そ、そのかか《嫁》の名前を。うん。「切り替えてくれ」っちゅって、家族移民に切り替えてもらって。

白：え、それ、それで二本松の奥さんと、それで、ぬ…、で、

IA：そうそうそう\*。

白：え、そ、それで？ {笑} あ、そう…

IA：{笑}

IB：急に結婚した。

白：急に結婚して。

IA：結婚も糞もねえのよ、もう。「な一に、<sup>いっかげず</sup>一ヶ月したら見つけてくる」っちゅわけだよ。「名前と写真持ってくるから、切り替えてくれ」って、もう。

IB：品物じゃあるまいし、{笑}

IA：うー。

白：どうやって見つけできたんですか？ それ。

IA：nāo 《いや》、それはね、たまたま、あの、うちに三輪車があったもんで、親戚とか知り合いのとこ、昼も夜も歩いて《回って》、「いいのはいねえが」と、「ブラジルへ行くんだ」って、何回も歩く《回る》けど、「ブラジルまではね」って言われてさ {笑} (白：{笑}) いねえんだって。「いや、これは困ったな」っていうことでさ、そして、たまたまその、同じ講習所に、(白：ええ、ええ) えー、Cotia 《コチア》で、く、希望者がおって、(白：ええ)  
<sup>じゅうしち</sup>17 歳<sup>じゅうしち</sup>って、【Cotia 移民で移住できるのは】18 歳からなんだけど、【そ

の本人は】1<sup>じゅうしち</sup>7<sup>こ</sup>歳で、来れねえわけだよ。18 まで待たないがん\*\*、(白：あーあー) そごで。そういうやつがおったんだよ。したら《そしたら》、あの、【家族移民の制度で移民するには】働き手が3人なきゃいかんわけだ。

白：3人。

IA：うん、だから、\*\*

白：あー、家族だと。

IA：そうそう。(白：うん、ええ)  
家族とすると、おー、家内と、  
誰か一人<sup>ひとり</sup>ね。

白：もうひとり。

IA：うん。だから、「俺、行くから、こういうわけだから、俺、かか《嫁》これから見つけるから、お前、一緒にいこ…」【赤の他人を連れて3人の家族移民という名目を立てるということ】

IB：よ、よう、昔、なんか、ね、女房の弟とか、(白：ええ) 一緒にみんな\*\*  
\*

IA：そう。そうそうそう。夫婦ふたりでは、(IB：だめな\*) 家族構成、誰かを、  
つ、連れないと、3人以上、いな、要るわけだ。

白：あーあーあー。

IA：そしたら、「俺も、その、見つける」と、(白：あーあー) いうわけで、俺は俺なりに探しとるわけだ。それが今度は、自分の生まれたところ行って【笑】  
(白：【笑】) 親兄弟の、頼んで探したら、その、そ、たまたま、その若い衆の、(白：ええ) 姉の隣の娘。(白：姉の隣の娘【笑】) なんとが、<sup>はなし</sup>話したら、「なんとがなりそうだ」っちゅうわけだ。「見合いに來い」っちゅうわけで、「いつ行くんだ」<sup>えっ</sup>って、「明日だ」って、「明日行って…」

IB：なんかなー、品物探してるような感じやね。

IA：【笑】

白：【笑】 え？ それでうまくいったわけですか？

IB：いまだに、一緒に仲良く…

白：いまだに一緒に。

IA：うん、いまだに【笑】

IB：い、いま、一緒に仲良く。

【補足説明：構成家族】

当時、移住者の定着率を高めるため、移住は原則として3人以上の家族単位でおこなう規則があった。そのため、まったくの他人を家族に入れることは珍しくなかった。他人を加えて作りあげた家族を「構成家族」という。

## 談話 1

白：正解だったわけだ。{笑} はー。びく…

IA：＊

IB：やっぱ、奥、奥さんのほうは、あの、あれやね。向こう【福島】のことは強いね。

IA：そりゃそうだよ。出て歩かんから。（白：あーあー）俺はいちおう、その、東京にもね、えー、4年ぐらいおったしさ、北海道行ったり…（白：あー）したから違うもん。

IB：訛り、あんまり福島の訛りないじゃん。

IA：どうしても、どうしても減るよ。

白：うん。

IB：なま、訛り、ない。

IA：まじ、いま、＊、混じるんだ。＊＊、どうしても。

白：うん。うん、どうしても混ざる。

### ■ 最初の移住地について（17:00～）

IA：うちの＊＊＊＊、郡山から二本松のあいだ歩いとった《移動してた》だけで、郡山で働いとったんだけどな、（白：あー）そして、おるところに、なんとが、い、行くかっこうができたよ、{笑}（白：形はね）ゆ、いうところ、（白：うん）あの、<sup>あんぜもりじ</sup>安瀬盛次【日系社会内で知られた人物であるため公人相当と見なして伏字にしない】つって、僕ら来たときに、<sup>ふなひき</sup>船引出身の、（白：はい）おー、fazendeiro《大農場主》こごでいう、（白：あー）なんちゅうかな、お、お、大農場、（白：お、農場主ね、fazen…）大農場主。あの一、南銀【南米銀行（ブラジル日系人の設立した銀行）】の副頭取だったんだ＊＊＊＊。南銀の、ほんとに社長、社長は、あ、日本人、外国人できないから【日本人がブラジルの銀行の社長にはなれないから】、外人になって。副…

IB：南米銀行ってあったんですよ。

白：南米銀行。あー、その、日本人がやってきて…

IA：そうそうそう。

IB：うん。

IA：その副頭取だったんだよ。（白：はー）すごいおっちゃんだったの。それ

がたまたま帰ったときに県庁、ほ、訪問したら、「今、県庁としても盛んにブラジル移民を奨励して、（白：あー）送り出してるところだ」と。（白：あー）始めて 2、3 年ころかな。（白：んー）行ったわけだよ。「いや、い、今、月に 3 家族、8 家族って、多いときは送っとる」と、そんなだったら、僕の、その、fazenda《農場》に福島県出身の農業移民は全部引き受ける」と、（白：あー）いうごどで、それ\*\*\*\*、そごで県庁と、その一、安瀬<sup>あんぜ</sup>盛次<sup>もりじ</sup>が、け、契約してさ。

白：あ、安瀬<sup>あんぜ</sup>？

IA：安瀬<sup>あんぜ</sup>。

IB：や、「安い瀬」って書くの。

白：あー。

IA：安瀬<sup>あんぜ</sup>盛次<sup>もりじ</sup>。

白：安瀬<sup>あんぜ</sup>盛次<sup>もりじ</sup>。

IA：これはあの、船<sup>ふね</sup>引<sup>しき</sup>出身のね、

白：船<sup>ふね</sup>引<sup>ひき</sup>の、（IA：うん）で、南米銀行の頭取。

IA：だったん。（白：はー）そして、cafezal《コーヒー園》つって、この、café《コーヒー》、café《コーヒー》園を、（白：ええ）いくつも持ったんだよ。

白：はー。

IB：そごに派遣され\*。

IA：だがら当然、県のほうでは、じゃあ、「福島県はこういうわけで、同県人のね、（白：ええ、ええ）えー、耕地に行けるんだ」と、いうごどで、もう、いやおうなし、そごへブラジル希望者をみんな入れた。

白：ええ、ええ。

## ■ 最初の移住地から移動した話（19:00～）

IB：\*で、「どのぐらいで逃げ出した」いうたっけ？【笑】

白：【笑】逃げた？ せっかぐ引き取ってもらったのに、逃げちゃったんですか？

IA：いや、聞いてると、古い人ね、（白：ええ）「あんた、なんぼもらっとるんだ」と、（白：ええ）「\* \* \* たんともらっとる」と、（白：あー）じゃあ、それで我々毎月の生活<sup>せいかずし</sup>費<sup>せいかず</sup>ったら、食うに足らんか、やっと、なんとが生活



はできるという程度なんだよ。(白：あー) 残りはしないわけだ。(白：あーあーあー) それが僕は、家族としては最高に条件いいわけですよ。(白：ええ、ええ) 自分ら若い者、夫婦ふたり、その、家族構成に若い <sup>かぞぐ</sup> 男 <sup>おとしとり</sup> 一人連れてきとるでしょ？

白：いちばん、その働かせる側としては、いいわけ\*\*\*。

IA：そうそうそう。無駄<sup>むだぶち</sup>扶持誰もいないわけだ。(白：うんうんうん) 最高に条件はいいんだけど、残るほどなんかもらえないんだよ。(白：あー) それだったらどうするがって、「そのうちに子どもうまれたら、赤字<sup>あかず</sup>んなるだろう」と、赤字<sup>あかず</sup>になったら、そのうじ何年経っても出ることできないんじゃないがど、(白：うんうん) んなら、俺は、で、いちばん先<sup>さき</sup>もう子どもの最初の子も生まれる前に出たいと(白：ええ、ええ) 出るとご探した、今度は。は、は、[笑] はた…

白：何年ぐらいで、出だんです？

IA：半年。

白：半年、半年。[笑]

IA：な一、あんた、最初の子もがこんななってて、「生まれる前に出ないかん」と、[笑] (白：なに、[笑] じゃ、じゃあけっこ…) 生まれたら赤字できるわけだ。[笑]

白：結婚してすぐできちゃったわけだ。[笑] は一。

IA：は一。だから、半年で出た。

白：[笑] ずいぶん子ども作んの早がった [笑]

IA：[笑] \*\*作ったわけじゃないんだけど、できた [笑]

白：[笑] ん一。今、何人いるんですか？ 子ども\*\*。

IA：子ども4人。

白：あ一。で、その、出て行ってつぎの仕事はなにしたんですか？

IA：その、出るためには、ね一、簡単に…

白：逃げるったって、そう簡単に…

IA：に、逃げるったって、行く先なけりゃ、逃げられんわけだ。(白：うん、うん) そいで、あの一、船で、今、46日間かかるときにね、(白：ええ) 北海道出身の<sup>しと</sup>人で戦前の移民で…

白：あ、戦前の移民。

IA：うん。

白：ええ。

IA：あの一、Mogi 《モジ》 の、São Paulo- Rio 《サンパウロ - リオ（リオデジャネイロ）》の<sup>こぐどう</sup>国道沿いに（白：はい）あの、Guarulhos 《地名：グアルーリョス》。

白：Guarulhos 《グアルーリョス》。はい。

IA：あそこに、\* \* \* \* \*に土地持って仕事<sup>しと</sup>した人。（白：はい）そして、あの、São Paulo- Rio 《サンパウロ - リオ（リオデジャネイロ）》街道<sup>なが</sup>ができるために、土地真<sup>なが</sup>中、こう、passa 《通過》したわけだ。その一、その土地、（白：はい、土地を買収して、ええ）買収されて、すごい金入ったわけだ。

白：ええ、ええ、ええ。それが、その、船で一緒になった、北海道の…

IA：そ、そう、その、じいちゃんばあちゃんが、（白：じいちゃんばあちゃんが、んー）子どもに分けてやって、半分を持って、Ásia 《アジア》へ遊びに行<sup>しと</sup>って、帰り、一緒になったわけだ。（白：ええ、ええ）で、三文将棋、好きで、そのじいさん、しょうない《しょうがない》んだがら。{笑}俺はもう、やったことあるっていう程度で、なんにもできないんだけど、将棋、相棒に、毎日相棒<sup>ぼぐ</sup>いないもんで、僕<sup>ぼく</sup>んどこへ呼びに来るわけだよ。（白：あー）「おー、〇〇【IA の名前】さん、また、やろうや」ちゅって、毎日おつきあいさせられてさ、2、3 時間…\* \*

白：でも、そのつきあいが、あったがら…

IA：うん。つきあいがあったために、（白：うん）いやー、「どご行ぐんだ。どっから来た」ってやってる間に、Arasatuba 《地名：アラサトゥーバ》っていう、\* \*、いうところで、【手まねで州の地図を作りながら】São Paulo 《サンパウロ》州が、こうあると、（白：はい）いちばん遠い<sup>しと</sup>とごへ、（白：あー、遠いとごに、うん、はい、ええ、ええ、ええ、ええ）入ったわけだ、その船<sup>なが</sup>の中<sup>しと</sup>の人では。Arasatuba 《アラサトゥーバ》へ入ったわけよ。入るんだわ。（白：うん）いちばん遠い、そして、いちばん São Paulo 《サンパウロ》でも暑いとごだ。「いや、それは困ったな」っちゅうわけで、して《そして》、もしか「出たい」っちゅうときは、<sup>れんらぐ</sup>連絡しろと、なんとが、ajuda 《手伝い》し、（白：うん）あん、ね、（白：ええ、ええ、ええ、ええ、

ええ、ええ、ええ) 世話してやるというごどを、<sup>ゆ</sup>言<sup>い</sup>って、名刺をもらって、  
 (白：ええ) その、当時の、この、かばんに入<sup>い</sup>り<sup>い</sup>ったんだわ。それで、  
 あのー、なんちゅうか、奥地から、で、なんとが、出るために、「はあ《い  
 やまあ》、一日も早く出よう」と決めたら、(白：うんうんうんうん) 決め  
 たら、んなら、「出るとこ探<sup>し</sup>さないかん」っちゅんで、その人<sup>ひと</sup>の名刺を見  
 たら、あるわけだよ。

白：あるわけ。

IA：São Paulo 《サンパウロ》。

白：うん。

### ■ 最初の移住地から移動した話／ポルトガル語で苦勞した話 (23:00～)

IA：それで、夜逃げみたいにして、隠れて汽車に乗ったわけだよ。Estação 《駅》  
 に着いたら切符買えない。手まねと足まねやりながら、São Paulo 《サンパ  
 ウロ》ゆきの切符買ったわけだよ。(白：[笑]、あー) 今度は、帰りにまた  
 切符買うのに骨折<sup>おうふぐ</sup>るから、往復<sup>おうふぐ</sup>買おうと思って。(白：あーあー、往復?)  
<sup>おうふぐ</sup>往復<sup>おうふぐ</sup>を買った。そしたら、ちゃんと通じて、<sup>おうふぐ</sup>往復<sup>い</sup>買えたんだよ。(白：  
 あーあーあー) して《そして》、【列車の中で】今度は、出すのは、なんと  
 いうの出していいか、わからんわけ。(白：はい) だけど、ふたつ出したら、  
 ちゃんととるから、「あ、こっちは、残ったほうは帰りだな」と [笑]  
 白：あー、<sup>の</sup>残<sup>ご</sup>ったがな《やつ》は持っていぐ、帰りだ」って。[笑] さっぱし  
 Português 《ポルトガル語》は、わがらながった?

### ■ 最初の移住地について (23:35～)

IA：não 《いや》、来て半年だけでは、あんた、あの、camarada 《臨時雇い》だ  
 ど、外人と、あ、一緒に働<sup>か</sup>ぐわけだよ。(白：あー、あー) familia 《家族》、  
<sup>かぞ</sup>家族<sup>ぐ</sup>持ってるものは、(白：あー) colono 《入植者》つって、(白：あー、  
 colono 《入植者》、ええ) 自分の仕事場、何本、café 《コーヒー》の木、何  
 本つって、請け負<sup>か</sup>い<sup>く</sup>なんだよ。(白：えー、えー、えー、えー) もう、いつ  
 もそれを見とぐわけだ。(白：ええ、ええ) 草生えたら削<sup>く</sup>って…  
 白：もう、自分たちだけで働く。  
 IA：そうそう、そうそう。

白：あんまり、じゃあ3人だけで…

IA：外人、外人とは全然ないのよ。

白：3人だけで、こう、しゃべったりなんたり《何したり》っていうのは、もう  
…

IA：そうそう、隣の人とがね。

白：隣の人どが。隣の人はどこの人だったんです？

IA：郡山<sup>しと</sup>の人だった。

白：あー、やっぱり福島の人が多が…

IA：み、み、み、nāo《いや》、みんな福島<sup>しと</sup>の人\*\*

白：もう、みんな福島の人ね。

IA：はい。

白：あー。あー。

IA：〇〇【人名B】さんらも、そんとき、俺らはこの耕地、さっき言ったように、  
（白：はい）3つぐらい持とったからね。（白：はい、あー）違うほうの、  
本耕地のほうにおったんだ、〇〇【人名B】さんらは。

白：は一、〇〇【人名B】さん。

IA：〇〇【人名B】さんつって、えー、こごの…

IB：ここ【県人会】の、古い、戦後の、会、会員。

白：会員。ふーん。

IA：\*\*。

# ■ 最初の移住地から移動した話／ポルトガル語で苦労した話（24:35～）

白：で、その、汽車に乗って？

IA：São Paulo《サンパウロ》に出てきた。

白：São Paulo《サンパウロ》出て？ 帰りの切符は使わなかったわけですね。

IA：São Paulo《サンパウロ》来て、切符は持とんだよ。（白：うん）ところがさー（白：うん）面白いんだよ。[笑] 大笑いになっから、[笑]（白：なに、なんだい《なんですか》？）São Paulo《サンパウロ》に着いてもね（白：ええ）São Paulo《サンパウロ》って、き、切符に書いてあるもんね。

白：うん、書いてある。うん、はい。

IA : ね？

白 : はい。

IA : ところが、São Paulo 《サンパウロ》 っていう駅はないんだよ。

白 : {笑} そういう<sup>えぎ</sup>駅はないでしょうね【サンパウロの中心駅は Luz 《ルス》 という駅名でサンパウロという名の駅はない】。



IA : 俺は、俺は当然 São Paulo 《サンパウロ》 っていう駅があると思っと思ったんだ。（白 : ええ、ええ {笑}）それで、あの一、もう estação 《駅》 から、ふたつぐらい手前【の駅】で、【車掌が】こんなして《こんなふうにして》、歩くんだよ。「切符、置いてくれ」って。（白 : あー、あー、あー、あー）「não 《いや》、俺はやらん」って。俺は、「Sa…、ん、São Paulo 《サンパウロ》 まで、つぎ、どご estação 《駅》 だ」っていうんだよ。Luz 《駅名 : ルス》 【長距離列車の終着駅】だどが、なんとが」って。（白 : あー、Luz 《ルス》）「não 《いや》、俺は São Paulo 《サンパウロ》 行く」{笑}（白 : {笑}）とうとう、やらなかったんだよ。もう、手、上げて、帰ってったよ。（白 : {笑}）{笑} そして、今度は、一人<sup>ひとり</sup>人になったの。終点に来たら。（白 : あー）「降りろ」っちゅうわけだよ。（白 : あー、あー、あー）「俺は São Paulo 《サンパウロ》 行くんだ」って（白 : あー、あー、あー）手まねで言うわけだ。「Não. São Paulo aq, aqui 《いや、サンパウロはここ》」っていうわけだ。（白 : 「São Paulo aqui 《サンパウロはここ》」{笑}）「ごどがら降りろ」っちゅうわけだ。どうしても、しょうねえ《しょうがない》がら、出てみたら、前は、こう、【線路が】ないんだもん。{笑}（白 : {笑}）汽車行けねえんじゃねえが。{笑}

白：{笑} それは、それ、どこだったんですか、São Paulo《サンパウロ》の？ {笑}

IA：Luz《ルス》 駅つつて。

白：あ、Luz《ルス》。あそこの。線路、すぐ近くの。

IA：あー、その、ほんとの終点なんだよ。（白：うんうん）あ、前見たら「終点だ」なんちゅうの、はっきりわかったんだ。それで初めて、「São Paulo《サンパウロ》 っちゅうけど、São Paulo《サンパウロ》 っちゅう駅ねえんだ」ど。だから、『よこせ。よごせ』 っちゅうとぎ、【車掌に切符を】 やってもよがったんだな」 と思ってさ、（白：{笑}、は一） {笑} は一、漫才みたいなもんだったよ、今考え…

## 談話 2

【談話 2】 IC (1 世) - ID (1 世) 31 分 54 秒

収録地点：ブラジル福島県人会会館

収録日：2012 年 3 月 10 日

話者の関係：IC と ID は県人会での知人どうし。IC のほうが年上である。談話 3、  
談話 4 と同じ部屋で録音したため、特に冒頭の数分は背後にやや雑音が入る。その後、場所を移動することで背後の雑音が小さくなる。

### ■ 地元 に いた とき の 話 (0:00~)

IC：遊びはね、やっぱり、  
向かいの山に行ったり、

ID：やっぱ、戦後でしょ？  
これ。\*\*\*

IC：そんな、戦後で、

ID：せ、戦時中とか、戦時  
中？

IC：戦時中だな。

ID：戦時中でしょ、やっぱ  
\*

【音が乱れる】

IC：<sup>とお</sup>10 \* 終戦だからよ、

ID：うんじゃあ、戦時中だ  
ね、遊んだのね。

IC：[咳] <sup>てつだい</sup>うちの手伝い、<sup>てずだい</sup>うちの手伝いはあんまりしなかった\*\*\*だな。

ID：しなかったの。

IC：学校、小学校、(ID：うん) 6 年から、なー、(ID：んー、学校、\*\*\* ) 野  
球が始まったがらよ、おれんどごは。

ID：あ、んじゃ、や、野球やって\*\*\*、そうす\*\*

IC：うん。(ID：\*\*) 小学校 <sup>ろぐねん</sup>6 年 かな。

ID：んじゃー、

【その場にいた一人が帰る】

ID：【帰る人に】じゃ、〇〇【帰る人の名前】さん、どうも。



【ブラジル福島県人会】

ブラジル福島県人会はサンパウロ市内の日系人街リ  
ベルダーヂ地区にある。調査にあたって多大な協力を  
いただいた。写真は、会館に置いてあった赤ペコ

IC:【帰る人に】あ。

ID:【帰る人に】わざわざ、ありがとうございました。

IC:【帰る人に】ご苦労さまでした。〇〇【帰る人の名前】

ID: うーん。

【帰る人から「遠慮なし、しゃべって」ということばがかけられる】

IC: {笑}

ID: \* \* \*、\* \*、\*、\* \* \*、\* \* \*たら、\* \*

IC: まあ、そんなもんだ。

ID: 食いものとかそんなに、いい\* \*、ながったでしょう。

IC: 食いもの？ あー、食べものは、あー、思い出すね。俺んとごは、百姓だろ？

ID: あった、やっぱり。

IC: だから、あの一、

ID: それは不自由しながった、んじゃー。

IC: 友達だのがな、(ID: うーん) あの一、来るよ。(ID: あー、\* \* \* \*) お一、そして、来たらよ、あの一、ん一、帰りに一、なに？ あの、芋をね、(ID: うん、芋ね)「芋、持たせてやれ」とが、なんとがつつてね、まあ、食うだけは、(ID: なんとか、腹、腹) なんとかがね、

ID: 腹、減んながった。

IC: 腹、減ら…

ID: く、<sup>くうふぐ</sup>空 腹 じゃ、なんねがったな。

IC: 食うだけは。

ID: 腹い、腹いっぱいになってたっていうことね。

IC: うん。

ID: \* \* じゃ、せ、戦時、戦後が大変だったんでしょ。戦後…

IC: そりゃあ、戦後大変だよな。んだって、なぜなら、あそこ百姓でも、みんな、

ID: 買出し来るでしょ？ どんどん、東京から、

IC: <sup>きょうしつ</sup>供 出 だからな。

ID: <sup>きょうしつ</sup>供 出、うん。

IC: 米。(ID: 米は、きょうしゅ…) 百姓でも、作ったもの、自分でこれ、こう



## 談話 2

じゃあ、できないの。

ID：できない、\*\*、\*\*

IC：作ったものは、いったん 供<sup>きょうしつ</sup>出して、

ID：\*\*して、それをもらう。

IC：それから、まだ、そのぶん、

ID：はい、配給ね。配給ね。

IC：んー、配給がもらう。(ID：あー) まあ、そのどぎ、ごまがすけどな。{笑}

ID：ごまが…

IC：ごまがすっちゅうことは、(ID：\*\*) おー、いづらか自分とご<sup>の</sup>残しとくわけよ。百姓は。

ID：そ、それ、た、大変だっていうことね。

IC：あー、大変。やっぱり大変よね。

### ■ いつ渡航したか (2:05～)

ID：それなら、そすて、それなら、\*、\*して、な、何年、来たの？ こっち、  
ブラジル\*\*

IC：移住は、い、

ID：戦後、戦後、20…、さん、さ、30 年…

IC：もう、戦後…

【調査者（白岩）がやってくる】

白：あの一、悪いんですけど、(ID：うん) あんまりこう声が重なっちゃうど、  
よぐないから、遠くのほうに (IC：{笑} あー、そう) 行ってもらえますか？

【同室で録音している他のペアから遠い場所に移動する】

ID：じゃ、\*、こ、こご、こごの、

IC：おいしょ。

【会話を再開する】

ID：ふーん、じゃあ、戦後…

IC：戦後…

ID：戦後移住ね。

IC：戦後移住。せん…、え、昭和 34 年でね、俺は。なぜブラジルに来たかって  
いうと、{舌打ち} んー、

ID : いや、<sup>むずが</sup>難 しいね。{笑}

■ 地元を出たあとの話／仕事の話 (2:50～)

IC : não 《いや》、あー、まあ難しいっちゅうより、(ID : あんまり…) 米軍に勤めててね、

ID : どごに？

IC : 米軍に。

ID : 米軍。あー、米軍の<sup>しごと</sup>仕事やってたの。

IC : 相模原のね、う、

ID : あー、じゃ、<sup>わが</sup>若 かったでしょ、そのころ。

IC : いや、もちろん若いよ。<sup>にじゅうし</sup>2 4 で来たんだから。

ID : まだ、ど、独身でしょ。

IC : ああ、もちろん。

ID : あー。

IC : あー、で、{咳払い} あのところね、ちょうどベトナム戦争が始める、あれでね、

ID : あー、始まるころ。

IC : ああ。それで、そのことがあったから、本当は、俺はカンボジア行くわけだったの。

ID : なにで、カンボジア、その、<sup>しごと</sup>仕事で。

IC : カ、仕事でって、アメ、米軍の (ID : ほきゅ、補給…) あの、補給所が、(ID : あー) 米軍の司令部が (ID : はい) カンボジアに移るっていうあれで、(ID : あー) ほれで、sol, solteiro 《独身者》は、(ID : うん) <sup>ゆうせんてぎ</sup>優先 的に行けたの、あっちな、(ID : んー) あっち行けば、また、い、(ID : 金…) 給料もらえるし、(ID : うん) 外国 \* \*

【バックで「そしたら、あと 30 分ぐらいしたらまだ来ますから」と調査者 (白岩) の声】

ID : だがら、あのころ金になった、日本ね。(IC : {咳払い}) ものすごく景気よくなった。な…

IC : それで、もう行くつもりしてた《行くつもりだった》よな。

ID : はい。

## 談話 2

IC: だげど、そのうちにもう、ベトナム\*、\*\*がら、cancela…《取り消し》  
なって、(ID: は一) それが駄目んなって、んで一、米軍の、あれは、ハワイ  
に移っちゃったよ。

ID: んー、あ、ある、うず、うず、<sup>うず</sup>移っちゃった\*\*、うん。

IC: それまで、うん。キャンプ座間にあった司令部が、ハワイに司令部が移っ  
ちゃったんだ。

ID: んー、ハワイに、あー、んー、うず、<sup>うず</sup>移っちゃった。

IC: うん。

ID: そのごろ、もう、ベトナム戦争終わった、終わったわけね。

IC: おー、não、não《いやいや》始まるから。

ID: 始まるがら。あー、始まる前。

IC: 始まる前の話。うん。

ID: した《そしたら》、かなり前だな、俺、<sup>わが</sup>若かった。あの、高校、俺、高校、  
高校のころだな、たしか。

IC: [笑] 昭和、だがら、来る…

ID: 昭和 4 <sup>よん</sup>…30 年すぎないね、40 年ごろ\*\*ね、\*\*\*。

IC: não《いや》、30…俺、34 年に来てんだもん。

ID: 30…あー、34 年、じゃあ、んじゃあ、ちょっと、まだ中学生、中学生\*\*

IC: [笑] 昭和 34 年。それでまあ、あー、いちおうやめて。なぜなら、たい、  
自己退職すると、退職金が余計にもらえるんだ、何パーセントか。

ID: あー、なるほど。ブラジルと違うねー。

IC: まあ、どこでもそうだよ。

ID: ブラジルは違うげんとね《違うけどね》。

IC: 違う？

ID: ブラジルは manda embora《会社都合の退職》すつと、mais《もっと》もら  
われんのよ。

IC: あ、ma, manda embora《会社都合の退職》のほうがいいわけね。

ID: いいんだよ。ええ。<sup>じごたいしょぐ</sup>自己退職すつと、すくな…

IC: あ、よ、うん、日本の場合は、não、não《いやいや》あの、<sup>じごたいしょぐ</sup>自己退職  
ていうより、

ID: うん、年限、き、希望ね、希望ね。

IC: 希望退職<sup>きぼうたいしよく</sup>な。

ID: 希望退職。

IC: それをすれば、

ID: Mais 《もっと》もらえる、じゃあ。

IC: Mais 《もっと》もらえたわけ。んだがら、「よし」それ見て、もう、「あれ  
\*」<sup>にじゅうし</sup>と思って、まだ若いから、2 4 だから、

ID: んー、だね。

### ■ 移住を決めてから船に乗るまで (5:20～)

IC: おー、そして、また、[舌打ち] あれだと思って、今度は静岡県のほう行っ  
たんだよ。

ID: あ、仕事<sup>しごと</sup>。\*\*\*

IC: 仕事じゃなくて、静岡県の、あの、富士の裾野にね、米軍…

ID: 演習<sup>いんしゅうじょう</sup>場 あるよ。

IC: [笑] 演習場

ID: \*、\*\*\*、いや、自衛隊の練習場、演習場あ…

IC: 自衛隊の演習場なりな、(ID: あ) あるから、そこ行ったらまた (ID: あー、  
まだしご…) 米軍の話が出るかもわか\*って、(ID: あー) で、行って行っ  
て、ほら、あー、失業保険もらうのに、静岡の職業安定所行ったよ。(ID:   
んー) そしたら、たまたま新聞に「ブラジル移住」なんて書いてあんだ\*  
\*

ID: あー、あのころ募集してたもんね。いっぱいね。

IC: 募集してた。

ID: 全<sup>ぜんこく</sup>国的<sup>てき</sup>にね。

【補足説明：コチア移民】10 ページを参照。

IC: いや、「Cotia 《コチア》青年」も募集してってるしね。あった。それで、  
その話、俺、あー、行ったら、「〇〇【IC の名前】さんは本籍が福島県なん  
だがら、(ID: うん) 福島県から行ったほうが、(ID: あー) もっと簡単で  
すよ」っちゅうから、こんだ【今度は】…

ID: 県庁にあった事務所ね。

IC: んー。

ID: 移住…

## 談話 2

IC: não 《いや》、そうじゃなくて職業安定所で話したら、(ID: あー) そしたら、  
今度は福島へ帰ったよ、田舎へ。

ID: うん。

IC: そして、この福島県庁行ったら、

ID: 向<sup>て</sup>ごうで手続きやったの。

IC: もう、だー、あれでやったん\* \*。それは結局、福島県は、あー、俺らが  
来るときで、「Cotia 《コチア》 青年」の送り出しはやめた。

ID: あー、Coti…

IC: 俺の前に、えー、〇〇【人名 A】さん。

ID: 〇〇【人名 A】、Cotia 《コチア》\* \* \*

IC: Ele 《彼》らが最後なんだ。福島県では送り出しは。

ID: あー、〇〇【人名 A】さんが、んー、Cotia 《コチア》 青年。

IC: 彼が Cotia 《コチア》 青年で。そのときに、一緒に〇〇【人名 B】って移住  
課長が、彼らと一緒に船で、き、助監督で来て、(ID: あー) ブラジル<sup>い</sup>へ来  
て、ひとまわり回って、(ID: はい) 調べたわけ。そしたら、福島県は Cotia  
《コチア》 青年の送り出しをやめたわけ。帰<sup>かい</sup>って。

ID: あ、あー。

IC: で、「県人会呼び寄せ」っていうこと。名前が変わっただけ。

ID: あー、変わった。県<sup>けん</sup>人<sup>つん</sup>会<sup>かい</sup>。

IC: まあ、それで来たよ。

ID: あ、Cotia 《コチア》 青年、あの、Cotia 《コチア》 でしょ。Cotia 《コチア》  
組合が…

IC: Cotia 《コチア》 組合が引き受け人<sup>しきうけにん</sup>になってね。

ID: 引き受け人になった、あー、なるほどね。

IC: だから、まあ、なぜブラジルん来たかっていえば、そのどぎちょうど、(ID: {笑})  
ほんと、まあ、俺、ほんと俺もう、あの、大学に (ID: うん) え  
ー、安く、勤めながら大学でもって、(ID: んー) 思う…つもりで、米軍に  
入ったんだけどね。

ID: \* \*, 米軍、米軍の仕事<sup>しごと</sup>ない《仕事ね》。

IC: うん。給料がいいからと思って、だけど、もう、遊ぶの覚えっちゃった《覚  
えちゃった》からな。

ID: あさ… [笑]

IC: 結<sup>けっきょく</sup>局 トータル足かけ 6 年よ。

ID: うーん、結<sup>けっきょく</sup>局、金は\*…

IC: 5 年何ヶ月か勤めて、で一、たまたま新聞で見だんだよ、これ、ブラジル来るの。

ID: ブラジルの移住、ぼ、移住募集ね。うん。

IC: ねー。募集。

ID: 大<sup>だ</sup>々<sup>だ</sup>的<sup>てい</sup>に宣伝したもんない《もんね》。

IC: 宣伝がしたから。

ID: うん、南米のなんとかってね。

IC: あー、それで行って、県庁行ったら、んー、「早<sup>さっ</sup>速<sup>そく</sup>履歴書書いて、あれしてくれ。で、あとから、うー、avisa《通知》するから、どうのこうの」んだ【んだから（＝それだから）の言いさしか】、県庁それでずっと集めてたんじゃない？ 俺が…

ID: それ、〇〇【IC の名前】さん、そ、一<sup>ひとり</sup>人<sup>り</sup>ですか？ 来たの、こっちに。一<sup>ひとり</sup>人<sup>り</sup>？

IC: não 《いや》.

ID: か、家族じゃなくて\*。

IC: 一<sup>ひとり</sup>人<sup>り</sup>。一<sup>ひとり</sup>人<sup>り</sup>。

ID: 一<sup>ひとり</sup>人<sup>り</sup>、うーん。

IC: 独身青年だから。

ID: 独身青年で。あー、Cotia 《コチア》せ…、んー。

IC: おなじことよ。(ID: うん、あー) 独身青年 12 人ね、一緒に。あの、来たわけ。

ID: 若<sup>わ</sup>かったない《若かったね》。なんぼ《何歳》、なんぼ《何歳》\*\*

IC: 2<sup>にじゅうし</sup> 4<sup>し</sup> だから。

ID: 2<sup>にじゅうし</sup> 4<sup>し</sup> で。

IC: で、そのときに、に、か、「結婚してげ」つつわれたんだ。

ID: あー、なるほどね。うん。

IC: ね、と、25 歳を…以上は、全部結婚しなきゃだめ。casado 《既婚》じゃないと。

ID: あー、なるほど、んー。

■ いつ渡航したか (9:00～)

IC: ね。んー、だから、結婚する。どうもあの、<sup>にじゅうし</sup>2<sup>4</sup> だからって。俺、10  
<sup>じゅうはちんち</sup>月 1<sup>8</sup> 日 生まれだろ？

ID: はい。

IC: 10 月<sup>ようか</sup>8 日出航だからよ、(ID: {笑}) まだ<sup>にじゅうし</sup>2<sup>4</sup> なわけだよ。(ID: \* \*  
\*、あー) {笑} それで、ひ、ひとりで来た。んだから、俺がいちばん…

ID: ど、独身でも、わが、<sup>わが</sup>若くて…

IC: 独身でも、いちばん、<sup>にじゅうし</sup>2<sup>4</sup> だ…、あとは 18 とかよ、

ID: あー、もっと<sup>わが</sup>若い<sup>ひど</sup>人たち。

IC: うん。若い連中。それで、来たよ。いつ誰とブラジルに来たか…まあ、そ  
ういうことで。

ID: あー、ひとりで来たっていうごどない《ことね》。

IC: うん。ひとりで来て、(ID: その一) あん、な、あー、12 人…

ID: 昭和 30…

■ 最初の移住地について (9:30～)

IC: 最後に【「最初に」の言い間違い】住んだ場所は、Assaí 《地名：アサイ》。

ID: んー、Assaí 《アサイ》。あー、Paraná 《地名：パラナ州》、Paraná 《パラナ  
州》のね。

IC: Paraná 《パラナ》州ね。みんな Assaí 《アサイ》。

ID: あー、んー。

IC: ひと家族 4 人ずつ、積んだよ。

ID: この前、あー、話したね。あの、日本人の家族に。

IC: うんうん。

ID: あの、<sup>し</sup>引き受け人ね。

IC: うん。引き受け人。

ID: \* \* \* \* \* ね。

IC: ○○【人名 C】さんって、この○○【サンパウロ市内の店の名前 A】の兄貴  
んとこ。

ID: あー、<sup>しらがわ</sup>白河の出身で、あー、そういうごどで。

IC: そうそう。

ID: おんなじ、引き…、ど、ど、同郷、ど…

IC: そうそう。そうそう。

ID: あー。

IC: ほんで、

ID: ○○【人名 C】さん、○○【人名 C】さんの、兄貴。

IC: ○○【人名 C】さんの兄貴なのね。

ID: あー、兄貴。あー。

IC: だがら、○○【人名 C】…、白河の、今で、し、あの、白河に合併されたけど、あず、\*、ひが、<sup>あずま</sup>東村つつって、○、あー、○○【地名（微細な地名なので伏せる）】か。○○【地名】村つつって、昔は白河<sup>まち</sup>町だったから、（ID: 町\*\*、あー）で、市になるときに一緒になったどご。だがら、手紙こっちから来たよ。だがら、○○【人名 C】さんの実家ね。

ID: 実家…

IC: しら、福島<sup>し</sup>のね、白河…

ID: 白河の、市、今、今、市<sup>し</sup>ね。

## ■ 渡航した船の話 (9:30～)

IC: 実家へ寄って、いろいろ話を聞いて、それで、その○○【店の名前 A】から、実は荷物頼まれたんだよ【店で売る商品を日本から持ってくるよう頼まれたという話】。

ID: んー、○○【店の名前 A】…、じゃ、そのころ○○【店の名前 A】は、そのとぎ、良<sup>い</sup>がった？

IC: おー。

ID: は、は、羽振<sup>い</sup>り良<sup>い</sup>がったのね。

IC: 羽振<sup>しとり</sup>りいいよ。で、（ID: あー）一人、あの、大きな行李<sup>こうり</sup>よつつつね、で、4人だから、（ID: んー）だがら、 $4 \times 4 = 16$ な、その、行李<sup>ししじゅうろく</sup>が並<sup>こうり</sup>ん…

ID: 並<sup>い</sup>んで、あー。{笑}

IC: ほど《それで》、横浜の幹旋所で荷物検査。

ID: んー。

IC: で、「自分のものだ」ってがんばれば、なにも、いいわけよ【商用の品物は



## 談話 2

税関でとりあげられるが、「自分個人の荷物だ」と言い張った】。

ID：いやー、「人<sup>ひと</sup>のものだ」って\*\*\*

IC：そう、い、ちゃんと、こ、\*\*てんだ。(ID：んー)ところが、16もおんなじやつが、もう、ここ、(ID：あー)「これはなんだって、あまりの、数が多い」

ID：多い\*、あーあーあー。\*

IC：おんなじ行<sup>こうり</sup>李だもん。中身みんなおんなじだもん。

ID：あー、じゃ文句言われた。んー。

IC：野球のグローブとかな、そういう運動の、文句言われたよ。

ID：あー、結<sup>けっきょく</sup>局…

IC：「あんた、これ…」

ID：密輸<sup>みずゆ</sup>し、密輸、密輸、密輸【笑】

IC：うん、「それ、ひとのものだら《なら》、あー、持ってけませんよ」って、(ID：あー)「あなたのものだったらね、自分のものだったら持っていいよ」

ID：じゃあ、厳しがったね。うーん。

IC：言われたよ。「あー、いやいや、実は頼まれたんだ」(ID：{笑})「置いとぎなさい。(ID：んー)全部、こちらでね、あれするから、あの一、頼んだほうにね」

ID：連<sup>れんらく</sup>絡すっから。\*\*すっから…

IC：「連<sup>れんらく</sup>絡して取りに来らせる《来させる》から、あんたたちは、何も関係ない」って言われた。\*\*\*

ID：あー、あー、そういうごど、あったんですか。んー。

### ■ ブラジル各地を転々とした話／仕事の話 (12:15～)

IC：そんなごとあったよ。Assaí《アサイ》から、それからもう、

ID：転々ね。あっちこち【笑】

IC：ひえー、ブラジルじゅう歩ってる《移動してる》よ。

ID：ブラジル inteiro《全国》。ブラジル…

IC：Assaí《アサイ》…、Assaí《アサイ》…、Assaí《アサイ》から、あの奥、Foz do iguaçu《地名：フォス・ド・イグアス》のな、

ID：Foz do iguaçu《フォス・ド・イグアス》。あっちの、Cascavel《地名：カ

【補足説明：転住する移住者】

ブラジルでは、最初の入植地でそのまま暮らし続ける移住者は少ない。IC は、この談話で確認できるかぎりにおいて、次の諸地点を転住している。以下の談話を理解するうえで参照されたい（番号は転住した順番）。このほか、日本で 15 年の出稼ぎをしている。



- ① アサイ                      ② フォス・ド・イグアス                      ③ セーチケーダス                      ④ バストス  
 ⑤ アラサトゥーバ                      ⑥ サンパウロ                      ⑦ ジュンジアイ                      ⑧ クンビカ  
 ⑨ (=⑥) サンパウロ (2 度目)                      ⑩ イビウーナ                      ⑪ マイリンキ  
 ⑫ (=⑦) ジュンジアイ (2 度目)                      ⑬ ブラジリア (地図外: 206 ページの地図参照)

スカベル》ない《ね》。

IC: あー、Cascavel 《カスカベル》の先。

ID: まだ<sup>さぎ</sup>先?

IC: まだ先よ。

ID: じゃ、I、 じゃ、Iguaçu 《イグアス》。

IC: Iguaçu 《イグアス》。

ID: Ig, Iguaçu 《イグアス》。

IC: Foz do iguaçu 《フォス・ド・イグアス》、あ、Sete Quedas 《地名: セーチケーダス》

ID: Sete Quedas 《セーチケーダス》まで行った…、あー。

IC: Sete Quedas 《セーチケーダス》、あそこで、それから Bastos 《バストス》<sup>い</sup>へ来て、(ID: Bastos 《バストス》) Bastos 《バストス》から、

## 談話 2

ID : Bastos 《バストス》、São Paulo 《サンパウロ（州）》だね【バストスがサンパウロ州であることの確認】。

IC : うん。Bastos 《バストス》、い、あの、養蚕のな、あそこへ来て、

ID : あ、ブラ<sup>たぐ</sup>拓【日系人の「ブラジル拓殖組合」】ね、\* \*。

IC : ブラ拓、ブラ拓。それから、São Paulo 《サンパウロ》へ来て、Jundiaí 《地名：ジュンジアイ》に行って、

ID : Jundiaí 《ジュンジアイ》。

IC : うん、Jundiaí 《ジュンジアイ》から…

ID : んー、だんだんだんだん、São Paulo 《サンパウロ》ちか…【「だんだんサンパウロに近くなる」というつもりか】

IC : あ、Jundiaí 《ジュンジアイ》からね、Cumbica 《地名：クンビカ》へ行ったんだよ。

ID : Cumbica 《クンビカ》、\*、Guarulhos 《地名：グアルーリョス》。

IC : Gualulhos 《グアルーリョス》の先のね。

ID : Gual… あー、

IC : そごへ行って、それから、また São Paulo 《サンパウロ》…、あ、Cotia 《コチア》に入って、Cotia 《コチア》【日系人の「コチア産業組合」】か…

ID : ず、ずっと、農業だね、ずっと農業関係、ずっと農業…

IC : 農業の、農業かんけ…、おー、Cumbica 《クンビカ》だけが、armazén 《倉庫》

ID : arma… あー、armazén 《倉庫》、そ、倉庫ね。倉庫、んー。

IC : armazen 《倉庫》って、そ…

ID : depó… depósito 《保管所》。

IC : depósito 《保管所》。depósito 《保管所》。

ID : あー、depósito 《保管所》、あの、んー。

IC : おー、で、それから、そう。おー、Cotia 《コチア》【に入って、Cotia 《コチア》で入って、{笑} 馬鹿みたいな話よな。

ID : したら《そしたら》、Cotia 《コチア》は景氣良<sup>い</sup>がったから、あのころない《ね》。

IC : Cotia 《コチア》に、俺、Cotia 《コチア》課長によ、「〇〇【IC の名前】君はどっから通ってるが」っていうから、そのどぎちょうど、São Joaquin 《街

路名：サン・ジョアキン（サンパウロ市内）のね、ちょうどこの向かいだよ。そこの向かいに〇〇【店の名前 B】ってね、その前、あの、向かいが今アパートンなってるけど、あそこは警察学校だったんだ。でー、あそこ広場があって、そのいちばん canto 《角》が〇〇【店の名前 B】の〇〇屋【業種名】さんだった。{咳払い}

ID：あー。

IC：あー、その〇〇屋【業種名】に俺は下宿して、

ID：下宿して、あー

IC：んー、で、こっから、消防署まで歩いて《歩いて》行って、あそっから、バスン乗って Cotia 《コチア》に通っていたわけ。

ID：あー。

IC：そしたら、課長が、「あー、あの一、金は払わないでもいいから、ここにあるアパートをな、おー、あの一、借りてやるがら、（ID：あ、あー）そごへ住め」って。なぜかつつえばよ、その〇〇【店の名前 B】は Cotia 《コチア》の食堂仕切ってるから。

ID：あー、Cotia 《コチア》の<sup>しょぐどう</sup>食堂 やって、経営\*\*

IC：だから俺は、昼飯はその Cotia 《コチア》の食堂で、（ID：はい）その〇〇【店の名前 B】のご飯食べてよ、で、夜はこっち下宿してるからよ、{咳払い}

ID：あー、{笑} \*\*、<sup>うじ</sup>うちだけ、\*\*

IC：そのとき、{咳払い} あっちで toma conta 《世話》してたのが、そのの、〇〇【店の名前 C】ってよ、

ID：<sup>しょぐどう</sup>食堂 の。

IC：食堂の。〇〇【人名 D】さん。

ID：と、あ\*、〇〇【人名 D】。あー。

IC：〇〇【人名 D】さんが、やっぱり、まだ<sup>どぐりつ</sup>独立する前で、

ID：あー、じゃあ、Coti… Cotia 《コチア》の<sup>しょぐどう</sup>食堂 やってた。

IC：Cotia 《コチア》のしょ、食堂の gerente 《支配人》やってたわけ。

ID：Gerente 《支配人》\*\*

IC：あー、それで、それで、まあ俺、「それじゃあ」つつーわけで見emいたら、立派な、あんた、アパートじゃない。

## 談話 2

ID：んー。

IC：んー、それで、それこれで、二日<sup>ふつか</sup>が三日<sup>みっか</sup>過ぎ、過ぎたかな。そしたら、その一、持ち主が、(ID：んー) 来たよ。いやー、「〇〇【IC の名前】」です。よろしく」って、「あー、よろしく」って。(ID：{笑}) なんだ。そしたら、彼が、いろいろ見せるわけだよ。写真だの。

ID：あー。{笑}

IC：ん、そしたら「この写真、誰ですか」と、「これは俺の親父だよ」つつたよ。

ID：あー。{笑}

IC：その、〇〇【人名 E】つつんだけどな、

ID：はい。

IC：その一、彼の親父つつのは、ブラジルで、あの、高級官僚じゃないの。んだけど、最終的には Belén 《地名：ベレン》の〇〇【役職名】で辞めて日本へ帰った<sup>しと</sup>人。

ID：日本 \* \* \* \*、あー。

IC：だ、それまで、ブラジルじゅうのところを、転々とね、

ID：あの一、その、りょ、領事の仕事 \* \*

IC：領事。領事の仕事をまわってたわけだ。んだ《そうだから》、顔はきいてるわけ、彼は。

ID：あー、\* \*、co… colonia 《移住地》ずっとまわって \* \*

### ■ 移住を決めてから船に乗るまで (16:35～)

IC：colonia 《移住地》まわって。Ele 《彼》が俺が来るときの横浜の斡旋所の〇〇【役職名】。ほしたら《そしたら》、

ID：んー、{笑} \*、\* \*、顔知ってた \* \*、そう \* \*、\* \* ね。

IC：もちろん、俺、なぜかつつたらよ、横浜の斡旋所におったどぎに、あんた、みんな、つ、引き連れ、よ、横浜はお手のもんだ。俺、鶴見に最初おったんだがら、(ID：あー、{笑}) 夜、一杯飲みみんな連れてよ、(ID：{笑}) それで、夜んな…【「夜になると」の言いよどみ】、あの、fecha 《閉門》してあったら、ここの、{咳払い} 雨どいをよ、

ID：うん。

IC：雨どいをよじ登って (ID：\*) 帰ってきたりよ。(ID：{笑}) 「待ってろ。

心配すんな。俺がいるから」って、\* \* やってよ、(ID: うん) あの、警備員をな、夜の警備員を起こす。「あー、申し訳ありません。実は私の友達に会っちゃって、もう、あと一週間もないんだからって言われまして、(ID: あー) あれだった」「あー、しょうがない」つって入れてくれて。(ID: {笑}) それが毎晩続くんだもん。(ID: あ、わー) したら《そしたら》、彼はよ、夜警員は〇〇【役職名】に話したよ。「こういう、あの、いつも飲んだくれて、(ID: 「駄目だ」って。{笑}) 来る」って。俺、呼び出し食ったよ。

ID: んー。{笑}

IC: あー。〇〇【役職名】に呼び出し食ったよ。

ID: あー、んー、じゃ、こっちゃ《こっちに》来る前だね。前の話、うん。

IC: あー、それで、「もしね、今後もそういうこと続けるなら、私はね、拒否権使えるんですよ」って言われっちゃった《言われちゃった》よ。(ID: {笑}) 「いげませんよ」って。「申し訳ありません」つったのが、その〇〇【人名 E】の、その、俺のアパート、借りたアパートの dono 《主人》の papai 《お父さん》。

#### ■ 日系人の知人にだまされた話／仕事の話 (18:10～)

ID: Papai 《お父さん》。あー。

IC: して《そして》、その〇〇【人名 E】っちゅうのは、なんで来たかっていうと、おー、papai 《お父さん》は千葉の人なんだけどね、千葉で、お嬢さんなんだよ。ほで《それで》、彼があんまり日本で素行がよくないから、ブラジルへ送ってよこした\*。(ID: {笑}) 奥さんをくつつけてな。

ID: ふーん。〇〇【人名 E】さんね。

IC: 〇〇【人名 E】って、今死んじゃったんだんだけど、〇〇【大学名】大学出てな、これでな、{咳} それで奥さんと来て、子どもふたりできてからね、奥さんがもう、嫌でね、別れちゃって。だから、俺が Cotia 《コチア》に行ったときには、もう、奥さんと別れて、奥さんはもう出て行っちゃったあとだから。アパート…

ID: あー、だから、それで空いででアパートを\* \* \*、

IC: うん。

ID: あー、借りら…、貸すっていう、貸すっていうごど。うん。

IC: 俺に、その…、で、俺がそれ、したら《そしたら》また、これは話が、もう続いて、そいで、「〇〇【人名 E】さん、\*\*、あなたはどうすんの」「いやー、今俺も困っちゃってんだ。Fazenda《農場》、Ibiuna《地名：イビウーナ》に〇〇【人名 F】って、今、vinho《ワイン》、fábrica《工場》で vinho《ワイン》かなんか、〇〇【人名 F】って有名な人\*、その人の fazenda《農場》を借りて、Cotia《コチア》青年を使って、一儲けしようと思ったわけ。

(ID: あー、Cotia《コチア》青年) それだけど、彼は、お前、自分ひとりだろ？ それでこっちに行ってあれして、あっちしないんだから、だれも居つく<sup>しと</sup>人いないよ、誰も【E はワイン工場の F の農場を借りてひと儲けしようと思ったが、他のところにばかり行って、その農場に来ないので、その農場には人が居つかなかった】。

ID: あー、\*\*\*\*よね。んー、もう…

IC: あー、いや、仕事する、んな《そんな》Cotia《コチア》の馬鹿がいないよ、誰も。

ID: こう、patrão《雇い主》が\*\*

IC: んー、「よし、じゃ、俺行ってやる」つってよ、(ID: んー) ん、今度、俺、Cotia《コチア》やめて、toma conta《世話》よ【E の代わりに農場の面倒を見た】。

ID: あー、\*\*\*\*

IC: Ibiuna《イビウーナ》の toma conta《世話》。

ID: んー、fazenda《農場》のね。んー。

IC: fazenda《農場》の。で、bata, batata-doce《さつまいも》作ったり、トマト作ったり、まあいい、最初の、い、あの 1 回目の出来かなんかは、いい。ところが、今度は tomate《トマト》やる、やる…あれがおったからよ、「よし、やれ」って言って、tomate《トマト》をやらせた。それがら、tomate《トマト》が値段がよくてね、出荷し、して、んだがら《そうだから》、彼も「金欲しい」っちゅうんで、お、か、patrão《雇い主》は帰ってこないんだ\*。んだから《そうだから》、俺、\*\*\*【地名か】行って、{咳} あれしたら、「〇〇【人名 E】が、みんなもう前金で持ってってますよ」っちゅうわけだよ【売り上げは E がすべて独り占めした】。(ID: {笑}、あー) 仲買いが。仲買いは、あー、その一、〇〇【人名 G】つってよ、

ID: ○○【人名 G】、\*、き、聞いだね、○○【人名 G】

IC: 有名。ここで、なんか学校がなんか持って、親が、○○【人名 G】って学園。

ID: あー、○○【人名 G】\*\*、\*\*、聞い…

IC: ほんで、それであんた、俺も頭へ来たよ。(ID: {笑}) で、○○【人名 E】に「借金してるから、ない」って【借金返済に売り上げをあてたからお金はもうないといわれた】。ほんでどうするあんた、トマト<sup>つく</sup>作り一生懸命やってよ、値段がいいから、がんばってやってんの、(ID: んー、\*\*) えー、○○【人名 E】は前金、その○○【人名 G】からもらっちゃって、金はない。「馬鹿野郎」つって、

ID: {笑}

### ■ ブラジル各地を転々とした話／仕事の話 (21:40～)

IC: 俺は今度はそれから、Ju、昔の Jundiaí《ジュンジアイ》の花<sup>つく</sup>作りの昔の patrão《雇い主》のどごろへ行って、そのころ、200 conto《コント（お金の単位）》借りて、200 conto《コント》借りてね、あの、{咳払い} その tomate《トマト》<sup>つく</sup>作りやってる、(ID: うん) あれに、歩合をね、そ\*\*、払って、その代わり、○○【人名 H】に、「もう俺はお前んどご出るぞ」って。それから、その、Mairinque《地名：マイリンキ》行ったわけ。\*\*

ID: Mairinque《マイリンキ》。あー。

IC: ね。Mairinque《マイリンキ》の、桃と、u…

ID: Pêssego《桃》ね、pêssego《桃》。

IC: Uva《ぶどう》と桃と、おー、柿か。

ID: Mairinque《マイリンキ》、日本人多いんでしょ？

IC: うん。{咳払い} その、それ、そご行って、1年間、やっぱり歩合じゃない、もう、あれみたいに、まだ煙草吸わんかったがらな、そのころ。んでー、あれして\*\*\*、「1年経ったがら」って、「精算してくれ」つつたらよ、なんだ、俺の友達のここで働いてる1か月分もないんじゃない。1年間の俺の、(ID: {笑}) 受け取るぶんが。(ID: あー)「あー、こんな馬鹿らしいのやめた」って。それやめてから今度 Brasilia《地名：ブラジリア》行ったわけ。

ID: ひどいねー、もう百<sup>しゃくしょう</sup>姓はね。



## 談話 2

IC: ひゃー。

ID: もう、は、<sup>はだら</sup>働いて、<sup>はだら</sup>働いて金入ってこないの…

IC: はえー、こー、んだが《そうだから》、昔の fazenda 《農場》 式なのよ。

ID: あー。 \* \*

IC: 金はね、「欲しいものは何でも \* \* てあげる」つって、金は渡さんわけよな。

ID: うん。 {笑}

IC: おー、それから Brasilia 《ブラジリア》 行って、INCRA 《インクラ (国設の農業団体)》 に今度は入ったよ。

ID: あー、Brasilia 《ブラジリア》 にも行ったの。 Brasilia 《ブラジリア》。

IC: Brasilia 《ブラジリア》 行ったよ。 Brasilia 《ブラジリア》 で、いや、長いよ。

ID: Brasilia 《ブラジリア》 で、何やったの? やっぱり…

IC: Brasilia 《ブラジリア》、INCRA 《インクラ》 入ったの。

ID: あ、INCRA 《インクラ》。

IC: ○○《勤め先の名称》 って、農地改革委員だ、日本で言うな。

ID: 農地<sup>かいがぐ</sup>改革委員だね、ん、農地<sup>かいがぐ</sup>改革、うん。

IC: うん、 \* \* 行って、

ID: あ、そんで、なに、 \*、fu, fucionário 《公務員》 でしょ?

IC: Fucionário 《公務員》。今度は fucionário 《公務員》。

ID: 今度のあの、国家公務員だね。

IC: お、ここなの。

ID: \* \*、 \* \*、国家公務員 \* \*

IC: だから、あれ、そこで、俺 \* \*

ID: んじゃ、そうずっと、いい仕事 \* \* \* \* \*

IC: いー、<sup>い</sup>良がったんだげども、(ID: 国家…) またほら、あー、あれながら、Ju, Jundiaí 《ジュンジアイ》 帰ってきて、その、<sup>むがし</sup>昔の patrão 《雇い主》が、…に、俺、200 ドル、か、200 conto 《コント》 借りてるもん。だから帰ってきて、いろ、「あ、なんだ、馬鹿、んなどご《そんなところ》 行ったって、お前、 \* \* \* \* \* から」 って、「もう一回 Jundiaí 《ジュンジアイ》 帰って花<sup>つく</sup>作りやれ」 っちゅうわけ。

ID: あー、Jundiaí 《ジュンジアイ》 {笑}

IC: 「金ねえ」つったら、(ID: {笑}) 「não 《いや》、貸してやる」つって、それ、金と土地をあれて、一 <sup>いっさぐ</sup> 作二作やった。(ID: んー) これだったら、んじやー、花 <sup>つく</sup> 作りを Brasilia 《ブラジリア》でやろうと思ってよ、(ID: あー) で、Brasilia 《ブラジリア》打診したら「土地ある」って。「あんたがやるんだら《なら》土地…」して《そして》俺はそこへ <sup>い</sup> \* \* してよ。で、こっちの使った金は palma 《椰子》の種を売ってよ、(ID: んー) 種を売って、limpa 《清算》して、残った種を caminhão 《トラック》1 台のつけて、Burasilia 《ブラジリア》

ID: \* \*、Brasilia 《ブラジリア》。あー。

IC: うん。それから、まー、Brasilia 《ブラジリア》でずっとだけどね。

ID: じゃあ、いろんなどごろ、いっぱい、あー {笑}

IC: ひやー、なんの仕事をしたかって、(ID: もう、いっぱい、みな \* \*) わー、なんでもやったよ。

ID: \* \* \* \* \* ね。

IC: うん。それから、こんだ【今度は】…

ID: Brasilia 《ブラジリア》に…

IC: Brasilia 《ブラジリア》から、こんだ【今度は】、ときどきここへ出てくるよ。Galvão Bueno 《サンパウロ市内の街路名：ガルバン・ブエノ》へ出てきて、

ID: {笑} \*、さ、酒は飲んだでしよ、そのころ。

IC: う、ひえー、もう、

ID: 酒 {笑} もう毎晩 {笑}

【補足説明：ブラジル語】

ブラジルの公用語はポルトガル語だが、これを「ブラジル語」ということがある。ポルトガルのポルトガル語とは発音などがやや異なる。

■ ポルトガル語で苦労した話 (25:30～)

IC: 毎晩だよ。【調査者の用意した話題表を読み上げて】「ことばのこと、ブラジルではどのようにことばを使い分けているか」っていうけど、今でこそ、ごまかしできるけどね、(ID: うん) 前はごまかしできないんだがら、ポ、ブラジル語【ブラジルのポルトガル語】なにもわかんないんだがらね、(ID: うん) 日本語だけよな。(ID: うん、{笑}) ことばで苦労した経験は、もちろんあるよ。

## 談話 2

ID: あるよね、それは。

IC: ひゃー、だまされてだまされて、あんた。

ID: んー、んー、やっぱ外人とご《外人のところ》に入って\*\*\*

### ■ ブラジル社会のよいところ・悪いところ (25:55～)

IC: 【話題表を読み上げて】あー、「ブラジルに暮らしてよいところ」、よいところっていうのは、まあ、ブラジルは、お、お…

ID: 半分半分だね。だいたいね。

IC: ん、んー、ま、おー、大雑把などごだがらな。

ID: 大雑把だ。大雑把だ、うん。

IC: 悪いところは、やっぱりブラジルの、macaco velho 《悪賢いやつ（直訳すると「老いぼれ猿」）》な、

ID: Macaco velho 《悪賢いやつ》ね。

IC: Macaco velho 《悪賢いやつ》っちゅーのは、なぜかっちゅーと、

ID: 老いぼれ猿\* \*。老いぼれ猿。{笑}

IC: 老いぼれ猿なんだけど、頭がいいんだよ。ごまかすのについては。

ID: あー。

IC: はー。

ID: {笑} 生まれつぎ…

### ■ 今の日本社会の悪いところ (26:25～)

IC: うん、それが悪いとごだ。【話題表を読み上げて】「ブラジルがら言って今の日本と…」、しかし、今の日本よりは、ブラジルのほうが、

ID: 住みやすいね。

IC: 住みやすいなー。はるかに。

ID: うん。それはいい、それはいい、はるがに。

【背後でほかの談話ペアが人名を言う声があり、消去した】

ID: \* \* \* \*、\*たら、ちょっと、い、息詰まっちゃうね。

IC: わー、日本におったら、息詰まっちゃうな。俺も日本で15年も、(ID: うん) あ、アルバイトして働いたけど、あー、息詰まるね。

ID: うーん、それはもう、\* \*、\* \*しいよ。あー、\* \*



■ 東日本大震災の話 (27:45～)

IC:【話題表を読み上げて】「地震のこと、地震のニュースをいつどこで知ったか」。(ID:あ一\*\*)これはもう、その日のうちに知ったよ。

ID: 知ったよね、ほんと。

IC: だがら、す、すぐ日本へ電話したら、通じなかったもん。

ID: \*\*、あんどぎ、一日\*通じ\*\*\*ね。金曜日、金曜日…、あの一、一日\*、通じない。次の、次の日だもんね。

IC: {笑} まるまる通じない。「あー、これは、やられたなー」と思ったら、次の日、来たけど、もうみんな…、【話題表を読み上げて】「日本<sup>にっぽん</sup>の友人や親戚と、ど、どうやって連絡をとったか<sup>れんらく</sup>」。連絡<sup>れんらく</sup>とったのは、電話だな。うん。

ID: 電話だね。電話で、うん。

IC:【話題表を見て】これからの福島はどうなると思うか…、いやー、難しいと思うよ。

ID: 難しいよない《よね》、うん。た、大変だと思うげんと《けど》、復興はあの、  
お、遅れ<sup>おぐ</sup>っと思うない《ね》。遅れ<sup>おぐ</sup>っけんと《遅れるけど》、元<sup>もと</sup>にもど  
...

IC: お一、<sup>おぐ</sup>遅れるとも。いや一、だがら、その一、放射能の、あれは、(ID: そご) 低くなっても、

ID: んー、住めないんだよ。

IC: 住めないんだよな。(ID: \*\*\*) 子ども、小さい子どもおったりしたら、みんな、

ID: 逃げちゃうよ、\*\*。

IC: 逃げちゃうよ。うん。これは問題だよ、ながながねー。

ID: あのー、あの、浪江町どがね、(IC: うん) 大熊町なんか、\*\*、住めない、あれ、もう。

IC: 住めないよな。浪江にしても大熊にしてもよー、あそこのどごろは、あー、  
難しいと思う。

## ■ 家族の話 (28:55～)

IC:【話題表を読み上げて】「家族はどこでどんな仕事しとるか」【話題表は「仕

事をしている」と書いたが「仕事しとる」と読み上げている】。家族は、私の、まあ、ここの、ここでの、息子だの娘らは、まあ一応、あ、大学出て、えー、うー、

ID：ブ、ブラジル人としてね。

IC：ブラジル人として、(ID：<sup>じん</sup>人として、うん) まあ、(ID：なんとも\*\*\*\*ね) あー、うん、\*、ちゃんとしてるから、安心よ。で、孫が、おとし日本から帰ってきたんだよな。(ID：あー) 大阪で、大阪に3年間、日本語学校の、ここの、(ID：あー) 総領事館からのあれだよ、

ID：あ、べ、勉強に行った。

IC：勉強行って帰ってきて、(ID：あー)「大阪好き」なんつってよ。

ID：あー、\*、なんで行かない\*、県人会の【なぜ福島県の県費による留学制度を利用しないのかという問いかけ】。

IC：う？

ID：あー、県人会、うー、いや、行げねえな、今ない《ね》。県人会の留学生はない《ね》。いやもう、去年がら…【震災対応の予算削減で県費での留学制度は休止になっていることを指す】

IC：うん。県人会の、\*\*\*\*、大<sup>おおさか</sup>阪に、あの、日本語の、りゅ、<sup>りゅうがく</sup>留学で、け、あの一、この、国費留学でな。3年間だよ。

ID：あー、あ、そっちのほうの、て、て、\*\*\*\*

IC：あー、んだから、うちの孫が12人行って、行ったけど、あれひとりだけよ、3年間っちゅうの。あとは、半年とか1年だったよな。

## ■ 友人の話 (30:05～)

IC：【話題表を見て】「友人についての思い出話や噂話などなど」だけど、(ID：{笑})ほんと、友達にも、こういう、あれなかったらな、

ID：難しいでしょ、<sup>れんらく</sup>連絡。<sup>とじ</sup>土地、もうばらばらで、

IC：ばらばら。\*\*\*\*、ただ…

ID：亡くなった人、亡ぐ、亡くなった人も多いんでしょうね。

IC：ああ、そうね。こないだ、あー、去年おとし、同級会があったどぎには、何人だろう。60人かな、<sup>しちじゅう</sup>70人ぐらいかな。(ID：\*\*\*\*)一応集まったよ。でも、ほんと、亡くなった人が多いよ。じゃ、来年、あの一、また集

## 談話 2

まりが…

ID: ○○【IC の名前】さん、なんぼ《何歳》、<sup>はじじゅう</sup>80 まだなってないでしょ？

IC: 80 の、あれだよな、来年。

ID: もう、\*、80。

IC: うん。(ID: んじゃー) <sup>ななじゅうく</sup>79 だけど、80 のお祝いをやる…、んだから  
来年…

ID: ち、ちが、\*\*\*\*、\*、が、賀寿、賀寿、賀寿、賀寿、賀寿…

IC: じゃない。傘寿。こないだ、その、去年、おとしやったのが賀寿。<sup>ななじゅうなな</sup>77  
な。

ID: な、<sup>ななじゅうなな</sup>77、米寿だ。米寿。<sup>ななじゅうなな</sup>77、米寿。あ、喜寿、喜寿。喜  
寿。

IC: 喜寿。

ID: 喜寿、喜寿ね。<sup>ななじゅうなな</sup>77。

IC: 喜寿、うん。喜寿、うん。<sup>ななじゅうなな</sup>77 は喜寿。

ID: そのつぎ…

IC: で、80 は傘寿つって、(ID: さん…) か、傘の…

ID: 傘。

IC: 傘。

ID: あ、傘寿っていう\*。ふーん。

IC: 傘寿。傘寿。

ID: …が、これから？

IC: 88 が米寿だな。

ID: 米寿、あー。

IC: まあ、米寿まで、な、会えるかどうかわから\*\*。そんなもんですね、私  
は。{笑}

### ■ 会話を終了する (31:25～)

ID: んじゃ、終わったがら、\*\*

IC: ほれ、あんた、\*\*\* んじゃない？

ID: {笑} 俺は\*\*、俺はもう用事あつから、もう帰る\*\*

IC: あ？

ID：用事あっから、\*\*\*\*。もう終わり\*\*。

IC：\*\*\*\*。

ID：うん、もう疲れだねー。

IC：うん、疲れた。これ、あんたのじゃない？ これ、俺のか？

ID：〇〇【IC の名前】さんのじゃない？

IC：俺のが。

ID：そうそうそう。\*\*\*。じゃ、ちょっと<sup>ゆ</sup>言ってくる、先生に。【調査者（白岩）を呼びに行く】

IC：はい。どうも、いいだろ、もうこれで。それじゃ、お<sup>さぎ</sup>先失礼します。